資料６

（令和５年３月）

日中サービス支援型共同生活援助の報告・評価に関する取扱い

１　日中サービス支援型共同生活援助について

⑴　概要

日中サービス支援型共同生活援助は、障害者の重度化・高齢化に対応するために平成３０年４月に新設された共同生活援助の一類型である。短期入所を併設し地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供することとしており、施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待されている。

⑵　対象者

主な対象者は、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することができない障害者（日によって利用することができない障害者を含む）である。なお、障害支援区分による制限はない。

２　広島市障害者自立支援協議会地域部会での報告及び評価

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準」第２１３条の１０では、日中サービス支援型共同生活援助事業者は、地域に開かれたサービスとすることにより、サービスの質を確保する観点から、定期的に地方公共団体が設置する協議会等に対して事業の実施状況等を報告し、評価を受けるとともに、必要な要望、助言等を聴くことと定めている。

広島市においては、以下のとおり取り扱う。

⑴　報告を行う協議会等

広島市障害者自立支援協議会地域部会（以下「地域部会」という。）にて年１回以上報告を行う。

⑵　対象事業所

新規指定から６か月を経過した事業所とし、⑶－アにより設定された地域部会開催時期を踏まえて障害自立支援課が指定する。

⑶　地域部会への報告及び評価（イメージ図は別紙のとおり）

ア　地域部会事務局（各区基幹相談支援センター。以下「事務局」という。）は、報告及び評価を実施する地域部会の開催時期を設定し、その予定時期を障害自立支援課へ報告する。

　障害自立支援課は、事業者へ地域部会への出席及び様式１「事業実施状況報告書」の作成・提出を依頼する。

イ　障害自立支援課は、アにより提出された様式１を事務局へ送付する。

ウ　事務局は、イにより送付された様式１を、地域部会開催日より事前に出席予定者（以下「評価者」という。）へ送付する。

エ　事業者は指定された地域部会に出席し、事業の実施状況等を報告する。

　地域部会は、報告内容に対し、様式２「事業内容評価票」により評価、要望、助言等を行う。

オ　事務局は、各評価者から提出された様式２を障害自立支援課へ送付する。

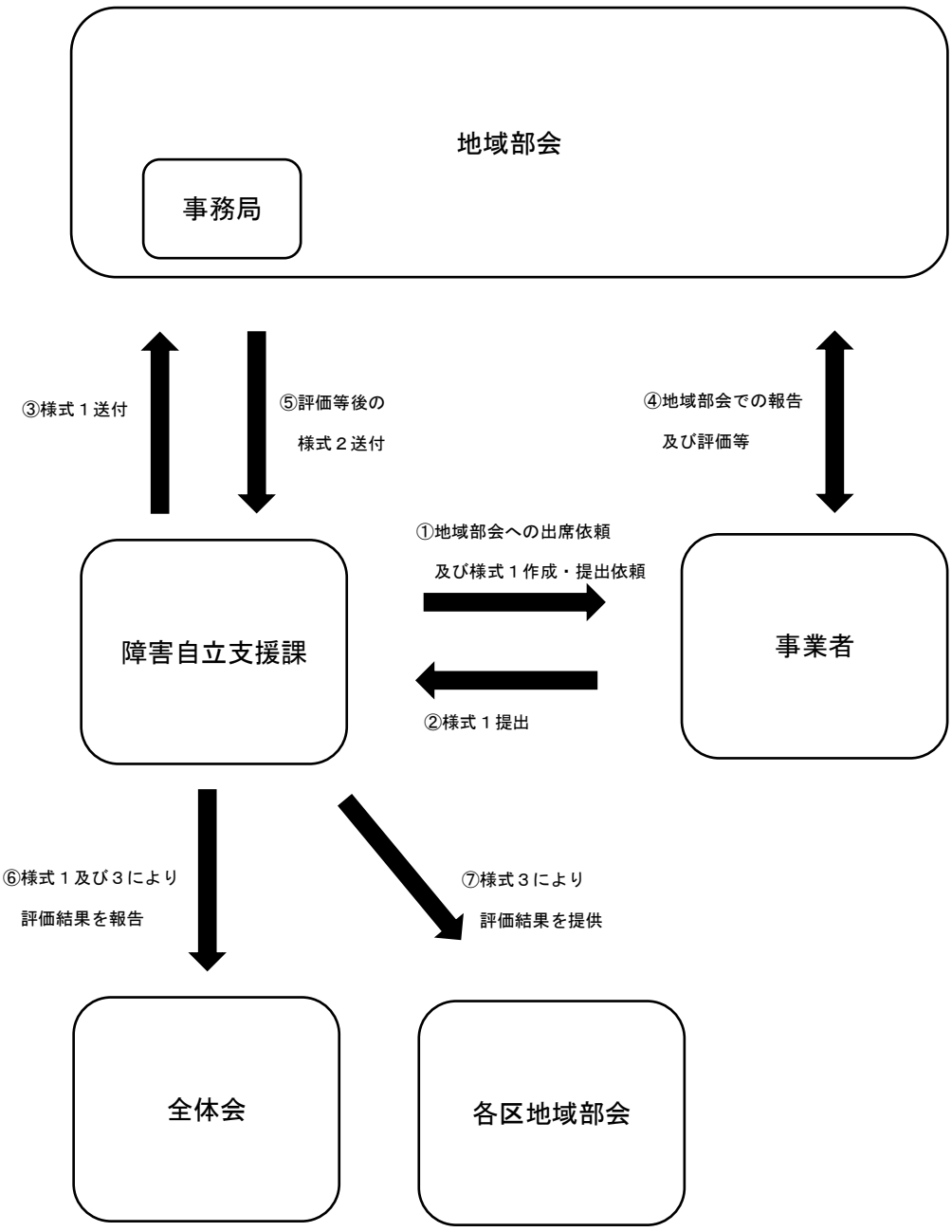
カ　障害自立支援課は、オにより送付された様式２を取りまとめ、様式３「事業内容評価等結果」により当該事業者に提示する。

キ　障害自立支援課は、原則、実施年度において全ての対象地域部会開催後、直近の広島市障害者自立支援協議会全体会にて、様式１及び様式３により報告及び評価結果を報告する。

　また、障害自立支援課は、様式３により結果を各区地域部会にも提供する（この際、事業所名等事業所を特定できる情報は表示しないものとする）。

別　紙

広島市自立支援協議会地域部会での報告及び評価のイメージ



日中サービス支援型共同生活援助事業所及び報告・評価実施日一覧

所在区	指定年月日	事業所名 （法人名）	共同生活住居	評価実施日
中	R4.4.1	グループホームＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町	グループホームＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町Ｂ グループホームＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町Ａ	R5.12.12
西	R3.9.1	グループホームりらっくす南観音	グループホームりらっくす南観音１ グループホームりらっくす南観音２	R5.9.11
安佐南	R4.3.1	グループホームりあん	グループホームりあん	R5.10.11
安佐北	R2.8.1	ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町２号館	ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町２号館Ⅰ ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町２号館Ⅱ	R5.7.27
	R4.8.1	グループホーム　にこり・ほっと	グループホーム　にこり・ほっと２階 グループホーム　にこり・ほっと３階	
佐伯	H29.5.1	グループホームひといき	ひといき利松 ひといき美鈴園 ひといき八幡	R5.9.21
	R3.6.1	ソーシャルインクルーホーム広島坪井	ソーシャルインクルーホーム広島坪井Ⅰ ソーシャルインクルーホーム広島坪井Ⅱ	R5.11.16

令和５年７月２４日
障 害 自 立 支 援 課

各地域部会での報告・評価にあたっての説明及び注意事項

評価者に対しては、以下の１によりグループホームの概要を説明した後、２により様式２の評価票の各項目とポイントについて、日中サービス支援型共同生活援助の創設の経緯や趣旨を踏まえた説明を行う。最後に、３のとおり評価者への注意喚起を行う。

（※１、２の説明の際には、別添１、２の資料等を適宜参考資料として使用する）

１　共同生活援助（グループホーム）の概要

⑴　対象者、支援内容

一定の介護が必要であり、地域の中での生活を希望する方を対象に、主に夜間において、食事や入浴等の介護や相談等の日常生活上の援助を行うサービス。

⑵　グループホームの類型

共同生活援助（グループホーム）は、３つの類型に分かれており、事業所の従業者により介護サービスが提供される「介護サービス包括型」、介護サービスを外部の居宅介護事業所に委託する「外部サービス利用型」、事業所の従業者により常時の介護サービスが提供される「日中サービス支援型」がある。

２　各評価項目と評価のポイント（枠内）についての説明

⑴　利用者の受入

【評価ポイント】
日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

- 「日中サービス支援型」は、障害者の重度化、高齢化が年々進む中で、重度障害者に対応できる体制を確保するために、平成３０年度に創設されたグループホームの新たな類型。
- 重度化、高齢化のため、日中活動系の障害福祉サービス等を利用することができない、又は日によって利用することができない障害者を主な対象としており、昼夜を通じて常に職員が配置されている。

→　事業所から報告される利用者の年齢や障害支援区分の内訳などを踏まえ、評価をしていただく。

⑵　支援の実施

【評価ポイント】
- 利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
- 利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
- 強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
- 協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

・　日中サービス支援型のグループホームでは、利用者のニーズに応じて、日常の介護はもとより、利用者が充実した生活を送ることができるよう外出や余暇活動等の社会生活上の支援を行う。
・　住居内でも利用者が日中活動を行うことができるように活動のメニューを組んでいるが、利用者の意向に反して、他事業所での日中活動サービス等の利用を制限することのないよう留意するとともに、利用者が外に出て日中活動サービスを利用できるよう、他の事業所と緊密な連携を図ることが求められている。
・　評価のポイントの３つ目に、「強度行動障害のある者への支援体制」を確保しているかどうかという項目について説明。「強度行動障害」とは、自分の体を叩いたり、危険につながる飛び出しなど、本人の健康を損ねる行動や、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど、周囲の人に影響を及ぼす行動が高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいう。
・　また、４つ目には「利用者の心身の状況に応じた医療ケア」を行っているかどうかという項目について説明。重度の障害者には、呼吸や栄養摂取、排泄など、日常生活において医療機器や医療行為を必要とする方がいる。
・　このような重度の障害のある方については、専門的な研修を修了した職員の配置や、医療機関等との連携等により、十分な支援体制を確保する必要がある。

→　職員の資格や配置、事業所での健康管理の実施状況等を踏まえ、評価していただく。

⑶　地域に開かれたサービス

【評価ポイント】
　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

・　日中サービス支援型のグループホームでは、利用者が地域において、家庭的な環境の下、また、地域住民との交流の中で、自立した生活を営むことができるよう、介護や日常生活上の援助を行うことが求められている。

→　事業所の地域との交流状況等を踏まえ、地域住民との交流の機会が確保できているかを評価していただく。

⑷　地域移行等の促進

【評価ポイント】
　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

・　日中サービス支援型のグループホームは、重度化、高齢化のため、日中活動系の障害福祉サービス等を利用することができない、又は日によって利用することができない障害者を主な対象としていることから、障害者の入所施設や精神科病院に入っている方の地域移行の促進や地域生活の継続に向けて取り組まれることが求められている。

・　また、グループホームに短期入所（ショートステイ）を併設し、地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供する等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待されている。

→　事業所として行っている取組みが、施設等からの地域移行の促進及び地域定着に効果的なものであるか、評価していただく。

⑸　その他自由記載欄（全体的な感想など）

その他、要望（当該グループホームに今後期待すること）や助言、感想等について記入していただく。

３　報告・評価にあたっての注意事項

評価の場で抱いた感想や評価の内容等は、外部に出回ることにより、評価者が意図しない形で事業所の評判低下を招き、事業所運営に支障をきたす可能性があるため、報告・評価の内容について、いたずらに噂話を広めることのないよう注意すること。

また、評価終了後に、記入された評価票は地域部会事務局（基幹相談支援センター）で回収する。

４　参考

前回、広島市障害者自立支援協議会全体会で報告・評価を実施した際のタイムスケジュール等について以下枠内に記載していますので、事業所との打ち合わせや当日の進行等の参考にしていただければと思います。

【タイムスケジュール】
- 事務局から事前説明
- ４事業所の報告、評価を４５分程度で実施
- １事業所あたり５分以内で事業報告をし、各事業所の説明が終わる毎に３分程度、質疑応答を実施
- 全事業所の報告・質疑応答が終わった後、全体を通しての質疑応答（１０分程度）

【事業所へ事前に伝達した事項】

時間の制約上、報告書全ての内容を説明するのは厳しいため、評価のポイントに関係する箇所に内容を絞り、最低限、以下の項目について説明していただくよう依頼した。
- 当該事業を行う動機、目的
- 当該事業の運営方針
- 利用者の状況
- サービスの内容、事業所の特色等

別添１

共同生活援助（グループホーム）の概要

障害のある方が地域住民との交流が確保される地域の中で、家庭的な雰囲気の下、共同生活を営む住まいの場

【利用者像】
・ 単身での生活は不安があるため、一定の支援を受けながら地域の中で暮らしたい方
・ 一定の介護が必要であるが、施設ではなく地域の中で暮らしたい方
・施設を退所して、地域生活へ移行したいが、いきなりの単身生活には不安がある方

【支援内容】
・主として夜間において、共同生活を営むべき住居における相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他日常生活上の援助を実施
・利用者の就労先又は日中活動サービス等との連絡調整や余暇活動等の社会生活上の援助を実施

【設備、立地】
・居室及び相互に交流を図ることができる設備を設ける
・ 居室の定員：原則１人
・ 居室面積：収納設備を除き７．４３㎡
・地域住民と交流が確保されるような住宅地に立地

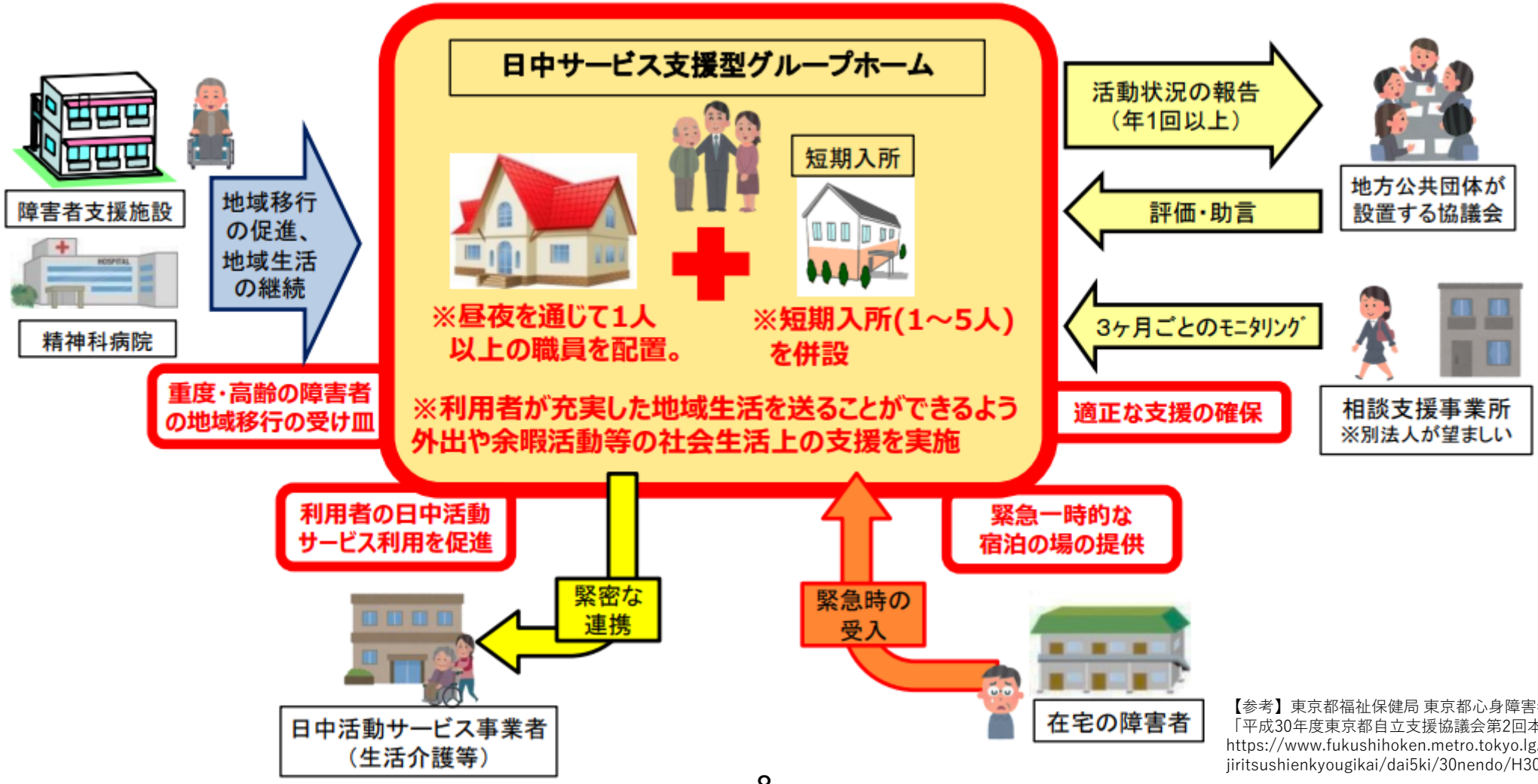
グループホームの3つの類型

	グループホーム（共同生活援助）		
	（介護ｻｰﾋﾞｽ包括型）	（日中ｻｰﾋﾞｽ支援型）	（外部ｻｰﾋﾞｽ利用型）
利用対象者	障害支援区分にかかわらず利用可能		
ｻｰﾋﾞｽ内容	主に夜間における食事や入浴等の介護や相談等の日常生活上の援助		
介護が必要な者への対応	当該事業所の従業者により介護ｻｰﾋﾞｽを提供	当該事業所の従業者により常時の介護ｻｰﾋﾞｽを提供	外部の居宅介護事業所に委託

【参考】厚生労働省.「障害福祉サービス等報酬改定検討チーム 第14回会合(R2.9.11)」.
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syougai_446935_00001.html

別添２　地域生活支援の中核的な役割を担う日中サービス支援型グループホーム

障害者の**重度化・高齢化に対応**するために平成３０年度に創設されたグループホームの新たな類型。
短期入所を併設し、**地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場**を提供することとしており、施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待される。



【参考】東京都福祉保健局 東京都心身障害者福祉センター.「平成30年度東京都自立支援協議会第2回本会議開催報告」. https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/jiritsushienkyougikai/dai5ki/30nendo/H30honkaigi2_houkoku.html

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

5年11月19日作成

法人名　株式会社マリモホールディングス
代表者名　深川　真

１　当該事業を行う動機・目的

常時の支援体制を確保することにより、利用者が地域において、家庭的な環境及び地域住民との交流の下で自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況に応じて共同生活住居において相談、入浴、排泄、又は食事の介護その他の日常生活情の援助を適切かつ効果的に行うことを目的とします。

２　当該事業の運営方針

地域において、家庭的な環境及び地域住民との交流の下で自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該入居者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、共同生活住居において相談、入浴、排泄又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行います。また、入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立ってサービスの提供を行います。
共同生活援助の実施にあたっては、入居者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し研修を実施します。

３　事業所等の基本情報

事業所名		グループホームSA-N-PO(三歩)本川町		
住居①	住居名	グループホームSA-N-PO(三歩)本川町A		
	所在地	広島県広島市中区本川町２丁目４番２２号-2F		
	定　員	9名	指定年月日	2022年4月1日
住居②	住居名	グループホームSA-N-PO(三歩)本川町B		
	所在地	広島県広島市中区本川町２丁目４番２２号-3F		
	定　員	10名	指定年月日	2022年4月1日
住居③	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
同一事業所での実施サービス	共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員:　19人　ユニット数:2			
	短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　1人　）			
	その他（サービス名・定員数：　人　）			

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	16人（令和　5年　11月19日時点）	平均在籍者数※1	10.8　人
１年間の入所者数※1	11　人	１年間の退所者数※1	1　人
年齢	20代以下：　2　人　30代：　2　人　40代：　3　人　50代：　7　人　60代以上：　2　人		
性別等	男性：　7　人　、平均年齢　47　歳　女性：　9　人　、平均年齢　49　歳		
入所の経路※1	入所施設：　1　人　病院：　15　人　他ＧＨ：　人　その他(　　)：　人		
	相談支援事業所名：		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　1　人　その他(　　)：　人		
障害種別※2	知的障害：　2　人　精神障害：　15　人　身体障害：　1　人　難病：　1　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　人　区分3：　4　人　区分4：　7　人　区分5：　2　人　区分6：　3　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者　：　0　人　強度行動障害のある者　：　0　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況
※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	*別表参照
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b		
世話人・生活支援員	c		
	d		
	e		
	f		
夜間支援従事者	g		
	h		
その他（　　）	i		
	j		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 入居者の自立を支援する為、積極的に参加して頂ける余暇活動、レクレーションを行います。 個性を活かしながら、季節に合わせた創作活動やイベントに向けた準備を皆で行うことで他者とのコミュニケーションを図ります。また、月に一度外部から講師の先生をお招きし音楽療法(リトミック)を取り入れることで心身の健康の回復、向上を図ります。生活訓練では、共用部や自室の清掃、洗濯等をご自身でできるようになることを目標に職員と共に行います。また散歩の日として皆で散歩や買い物を行う外出支援を行い、利用者様一人一人の得意不得意なことを観察し、お互いが尊重し合いながら生活が出来るよう支援します。また、外出等が難しい方には訪問美容や訪問歯科をお願いしています。
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 訪問看護エイトケアと医療連携し、入居者の急変や怪我等に迅速に対応出来ます。 日常的な経過観察を通じて、常に情報を共有することで様々な事案に迅速に対応できる体制を整えています。 職員間においてもPDCAサイクルを回していくことにより、異常の早期発見、悪化防止、改善、症状の安定に努めます。
運営	地域開放・交流	地域住民との交流を図るため、地域のイベント等への参加しています。今後地域の清掃活動等の参加を予定しています。
	家族会の開催状況等	家族会の開催はできておりませんが、関係機関、家族等からの相談は随時受け付けています。また、利用者様に担当職員をつけることにより、担当職員が関係機関、家族等と積極的に連携を図り、利用者様に合わせた適切な支援を提供します。
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 障害者の高齢化・重度化の対応や「親亡き後」を見据え、障害者が地域で安心して暮らしていける社会、この社会から少しでも生きづらさを無くすため、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を整えます。施設入所や入院から地域生活への移行を図るため、各機関との連携を図ります。地域生活支援拠点等の取り組みにおいても協力体制を整えます。

７　１日の流れ（モデルケース）

	0:00	2:00	4:00	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00
月	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
火	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
水	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
木	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
金	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
土	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯
日	←	就寝	→	起床・朝食身支度	日中活動	（レク昼食準備）	昼食	レク・余暇・入浴		夕食	余暇時間	消灯

８　その他事業所のアピールポイント

・提供する食事には、無農薬で自然栽培の野菜を使っています。マリモグループ企業の「ココノミ」で栽培する有機・無農薬にこだわったクラフト野菜を使って、毎食職員が調理し、温かい食事を提供します。
・利便性の高い本川町に位置します。街中の立地であることから、外出支援において行動範囲を広げることができます。
・生活空間である居室は最大15帖と快適な広さを確保しています。全居室にトイレ、独立洗面台、エアコン、Wi-Fiを完備しております。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	実務者研修修了・強度行動障害支援者養成研修修了	
サービス管理責任者	b	常勤	サービス管理責任者研修修了・行動援護従事者養成研修修了・全身性障害者異動介護従業者養成課程修了・介護福祉士	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	c	常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	d	常勤	実務者研修修了・強度行動障害支援者養成研修修了	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	e	常勤	該当なし	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	f	常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人	g	常勤	該当なし	
生活支援員・世話人	h	常勤	該当なし	
生活支援員・世話人	i	常勤	該当なし	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	j	非常勤	該当なし	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	k	非常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人・夜間支援従事者	l	非常勤	強度行動障害支援者養成研修修了・同行援護従事者養成研修修了・介護福祉士	
	m			
	n			
	o			
	p			
	q			
	r			
	s			
	t			
	u			
	v			
	w			
	x			
	y			
	z			

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

令和５ 年 ８ 月 22 日作成

法人名　有限会社リラックス

代表者名　國政　秀一

１　当該事業を行う動機・目的

本市、障害福祉計画によるグループホームサービス量、施設入所者の地域移行する者の目標値、平成29年1月27日から平成29年2月14日に本市で調査された障害福祉等に関するアンケート、などの結果を鑑みて障害のある方が地域移行を行うには、課題の一つである住まいの場所の不足について解決していく必要があるため。

２　当該事業の運営方針

利用者から多くの声を聴き、何を必要とされているかを考え、先を見据えて、その方のこだわりや特性、個性を生かせるようなサービスを提供する

３　事業所等の基本情報

事業所名		グループホームりらっくす南観音		
住居①	住居名	グループホームりらっくす南観音１		
	所在地	広島市西区南観音７丁目２－１３		
	定　員	１０名	指定年月日	令和3年9月1日
住居②	住居名	グループホームりらっくす南観音２		
	所在地	広島市西区南観音７丁目２－１３		
	定　員	１０名	指定年月日	令和3年9月1日
住居③	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
同一事業所での実施サービス	共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員：　２０人　ユニット数:２			
	短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　１人　）			
	その他（サービス名・定員数：　　人　）			

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	19人（令和５年７月1日時点）	平均在籍者数※1	19.1人
１年間の入所者数※1	3人	１年間の退所者数※1	1人
年齢	20代以下：　3　人　30代：　4　人　40代：　4　人　50代：　6　人　60代以上：　2　人		
性別等	男性：　10　人　、平均年齢　40.6　歳　女性：　9　人　、平均年齢　50.3　歳		
入所の経路※1	入所施設：　2　人　病院：　人　他ＧＨ：　人　その他(自宅)：　1　人		
	相談支援事業所名：　人		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　1　人　他ＧＨ：　人　その他(　　)：　人		
障害種別※2	知的障害：　14　人　精神障害：　1　人　身体障害：　7　人　難病：　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　0　人　区分3：　6　人　区分4：　7　人　区分5：　3　人　区分6：　3　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者：　0　人　強度行動障害のある者：　2　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況

※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	別紙参照
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b	常勤	
世話人	c		
生活支援員	d		
夜間支援従事者	e		
その他（　）	f		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 平日の日中は、通所事業所に通っている方が多く、体調不良等でお休みされる利用者以外に在居の方は少ない。このため昼食に関しては昼食提供はせず、本人か職員同行で昼食を買いに行くことが多い。また在居時は居室の清掃や、近所の買い物支援を行っている。 休日は在居の利用者も多く、職員体制により、運動やカラオケ大会など余暇活動を行っている。天候によっては、個別に散歩に出かけたりしている。食事は配食サービスを利用しているが、月2回、昼食時に職員の手作りの食事を提供している。当初はメニューを固定していたが、家族や利用者の要望もあり、季節に応じたメニューなどバリエーションを増やしている。 年数回、外出行事としてイベントを企画した（1年間の実績、10月－BBQ、6月プロ野球観戦など） その他、クリスマス会や、利用者の誕生日にプレゼントをお渡しして日々の生活にメリハリがつくように心がけている。 月1回、訪問美容をお願いしており、1人で外出が難しい方には散髪をしてもらっている。
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 訪問看護と連携を取り事業所ごとに連携ノートで通院などの情報提供を行っている。 家族での通院が難しい方についてはGH職員で通院同行を行っている。その際、医師との連携を行っている。 利用者全員に朝、帰着時、入浴前には検温を実施。血圧等で健康不安がある方は、1日2回血圧測定を行っている。 希望者には月１～２回程度訪問歯科をお願いしている。
運営	地域開放・交流	コロナによる行動制限は徐々に緩和されており、地域のイベントも再開され始めている。 町内会のイベント等には積極的に参加していきたい。 現在町内会に入会手続きを取っている。
	家族会の開催状況等	現状としては開催できていない。 個別に連絡を取る際に、利用者本人の状況やGHの様子をお伝えしたり、家庭の様子や要望をリサーチしている。
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 現状、地域移行された利用者はいないが、将来的に1人暮らしを希望されている方はいる。相談支援事業所と連携を取り、職業訓練校への申し込みや、移動支援を活用をして1人暮らしの土台作りを行っている

７　１日の流れ（モデルケース）

	0:00～2:00～4:00	6:00～8:00	10:00～12:00～14:00	16:00～18:00～20:00～22:00
月	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床・朝食 身支度	作業所等	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
火	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床・朝食 身支度	作業所等	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
水	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床・朝食 身支度	作業所等	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
木	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床・朝食 身支度	作業所等	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
金	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床・朝食 身支度	作業所等	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
土	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床 朝食	余暇・身辺整理 居室清掃 / 昼食 余暇	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠
日	睡眠（0:00、2:00見回り）	起床 朝食	余暇・身辺整理 居室清掃 / 昼食 余暇	入浴 身辺整理 / 夕食 余暇・就寝準備 / 消灯 睡眠

８　その他事業所のアピールポイント

市内中心地にある日中サービス支援型のグループホームです。
そのため、日中サービス支援型ではありますが、通所事業所の利用がしやすい環境にあります。実際に日中在居の方は少なく、平日は通所される利用者が多いです。そのことによって、入居前に近い形で生活が出来ている方も多いです。1日の中で外出する時間があることで、生活にメリハリができていると思います。
しかし、本来の日中サービス支援型の目的である日中の支援も行っています。年齢的、体力的、精神的に毎日の通所が難しい方は、事業所内で過ごせるように、見守り、食事支援等を行っています。
通院介助も必要に応じて行っており、医療機関との連携も図っています。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応
１利用者受け入れについて ・積極的に受け入れを行っているとは説明の中では見えない。 ２支援の実施 ・強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。 ３地域に開かれたサービス ・早期に地域交流を進めることが必要。その方策が策定されていない。 ４地域移行の促進 ・年齢が高いと地域定着が難しいことが多い。コロナ終息以降に逆に地域の方をお呼びして、障害のある方たちの慣れた空間で茶話会やゲームで交流を図れるとよいと思う。	１－現在定員20名に対して19名の入居である。 今後も積極的に受け入れを行っていきたい。 ２－強度行動障害の利用者と高齢や身体障害の利用者とでは支援の方法が異なり、同時の受け入れは難しい。家庭的な雰囲気や生活をしたい利用者が多いので、現状はそのような支援を行っている。 ３－地域交流を図るため町内会長への挨拶は行った。町内会への入会を手続きを行っている。 地域イベントや清掃活動など積極的に参加したい。 ４－高齢者の活動に参加は出来ていないが、町内会入会後は老人集会所等の活用を考えている。 そこで情報交換等を行っていきたい 地域イベントに参加することで障害に対しての理解や交流を図りたい

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	施設環境管理、スタッフ管理、世話人兼務（直接支援）、強度行動障害支援者養成研修修了	
サービス管理責任者	b	常勤	個別支援計画作成、相談業務、関係機関との連携 生活支援員兼務（入浴介助等）	
生活支援員	c	常勤	管理者補佐、日勤、世話人兼務（夜勤） 看護師	
生活支援員	d	常勤	日勤（入浴介助、通院介助、環境整備）	
生活支援員	e	常勤	日勤・世話人兼務（夜勤）	
生活支援員	f	常勤	日勤・世話人兼務（夜勤）	
生活支援員	g	非常勤	日勤・世話人兼務（夜勤）	
生活支援員	h	非常勤	日勤（入浴介助、食事介助等）	
生活支援員	i	非常勤	日勤（入浴介助等）	
世話人	j	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	k	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	l	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	m	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	n	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	o	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	p	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	q	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	r	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	s	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	t	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	u	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	v	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
世話人	w	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
加配要員	x	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
加配要員	y	非常勤	夜勤（入浴介助、食事介助、環境整備等） 夜間支援従事者（夜間巡回）	
	z			

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

令和5年9月13日

法人名　株式会社 Merci
代表者名　山根　陵

１　当該事業を行う動機・目的

訪問介護を通じて、障害者本人の思い、家族の将来への不安や負担、苦悩の声を目のあたりにし、本人はもちろん家族と共に
安心できる場所を提供できたらと開設に至りました
また、日中にも支援が必要な方にも安心して日常生活を過ごして頂きたいと思案しました

２　当該事業の運営方針

利用者各々の自立と安心、安全な生活の場を提供し、共同生活の中で温かく楽しい日常を過ごして頂けるよう支援します
利用者と家族とスタッフが、寄り添い信頼関係を築いていくことを目指します
出来る限り、各々の生活を無理なく過ごせる環境を提供できたらと思います

３　事業所等の基本情報

事業所名		グループホーム　りあん		
住居①	住居名	グループホーム　りあん		
	所在地	広島市安佐南区伴中央6丁目1-5-4		
	定　員	10名	指定年月日	令和4年3月1日
住居②	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
住居③	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
同一事業所での実施サービス	共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員：　10　人　ユニット数：　1			
	短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　1　人　）			
	その他（サービス名・定員数：　　人　）			

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	4人（令和5年8月1日時点）	平均在籍者数※1	5人
１年間の入所者数※1	5人	１年間の退所者数※1	1人
年齢	20代以下：　1　人　30代：　3　人　40代：　人　50代：　人　60代以上：　人		
性別等	男性：　4　人　、平均年齢　32　歳　女性：　0　人　、平均年齢　歳		
入所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　1　人　その他(保護者・相談員)：　4　人		
	相談支援事業所名：相談支援センターらんたん		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　人　その他(実家)：　1　人		
障害種別※2	知的障害：　4　人　精神障害：　人　身体障害：　人　難病：　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　人　区分3：　1　人　区分4：　人　区分5：　2　人　区分6：　1　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者　：　人　強度行動障害のある者　：　3　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況
※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

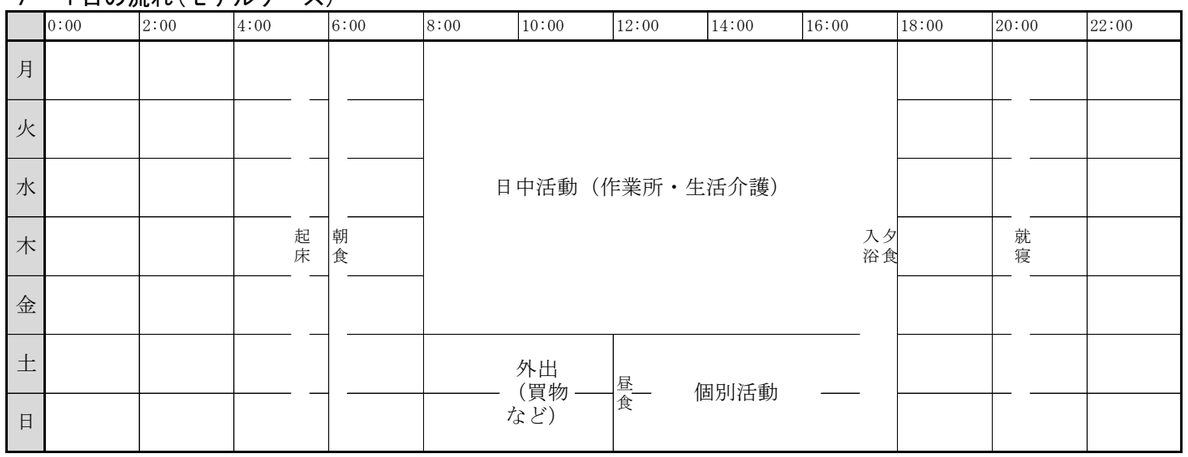
職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b	常勤	
世話人	c		
	d		
生活支援員	e		
	f		
夜間支援従事者	g		
	h		
その他（　　）	i		
	j		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 各々に見合った外出―・買物は食べたい物や必要な物など助言を加えながら自身で選び購入する ・公園や公民館など　・散歩 各々の望む余暇時間の手伝い―・自室の整理から片付け、清掃　・ペットボトル潰し　・絵を描く 体操　・タブレットなどの扱い　・工作　・庭の手入れ　・庭での食事
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 かかりつけ医等の通院はスタッフと行い状態の共有 急を要する時は、協力医にて受診 毎日の行動の変化、体調チェックの記録　共有
運営	地域開放・交流	立地が古い団地内のため、近隣も高齢化しており最初は受け入れに抵抗も見られましたが、外出などで少しずつ交流も増えはじめています
	家族会の開催状況等	コロナ感染症の状態、それぞれの複雑な家庭環境もあり、実現できていませんが、各家族とは常に連絡をとり、互いに相談しやすい関係を保ちたいと考えています
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 医療センター、リハビリセンターなどに伺い、自立生活を望まれている方への紹介を依頼 退院後の居住先が決まらない方の、入院中からの体験入居を受け入れています

７　１日の流れ（モデルケース）



８　その他事業所のアピールポイント

訪問介護事業所を併設しており、施設スタッフでは難しい、遠くへの買い物や時間のかかる外出などを共有し移動支援を利用して、楽しまれています

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	介護福祉士　強度行動障害研修	
サービス管理責任者	b	常勤	介護福祉士　強度行動障害研修	
世話人	c	常勤	介護福祉士　強度行動障害研修	
世話人	e	常勤	強度行動障害研修	
世話人	e	常勤		
世話人	g	非常勤		
世話人	h	非常勤		
生活支援員	i	常勤	介護福祉士　強度行動障害研修	
生活支援員	j	常勤	介護福祉士　強度行動障害研修	
生活支援員	k	常勤	強度行動障害研修	
夜間支援従事者	l	常勤		
夜間支援従事者	m	常勤		
夜間支援従事者	n	常勤		
夜間支援従事者	o	非常勤	看護師	
夜間支援従事者	p	非常勤		
	q			
	r			
	s			
	t			
	u			
	v			
	w			
	x			
	y			
	z			

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

2023 年 6 月 25 日作成

法人名　ソーシャルインクルー株式会社
代表者名　代表取締役社長　田中 浩一

１　当該事業を行う動機・目的

弊社はこれまで介護包括型でグループホーム運営を実施してきたが、より緊急性の高い利用者様・より重度の利用者様の受け入れに関して、介護包括型は日中の職員配置の想定がされておらず、職員配置と人件費の問題があり、一歩進んだ支援に対して踏み込めない状況であった。そうした経緯もあり、日中サービス支援型で事業運営することで、今まで受け入れが難しかった日中活動先のない方・日中活動が困難な方など、重度の利用者様の受け入れを積極的に進めていく。

２　当該事業の運営方針

住まいで困っている障がい者が「０」の社会を創ることを理念とする。福祉は、まだまだマイナスイメージや情報、課題が多い中で、弊社は利用者様・働く職員・福祉や介護の業界に関わる全ての方々と共に協力しながら成長し、社会に必要な基盤を創造し続けることを常に考え行動する。今後も全国で障がい者グループホームを展開して、知的・精神・身体の障がいの有無に関係なく、全ての人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにすることで、社会に沢山の希望を届けたいと考えている。

３　事業所等の基本情報

事業所名		ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町2号館		
住居①	住居名	ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町2号館Ⅰ		
	所在地	広島市安佐北区狩留家町2903-1 1F		
	定　員	10名	指定年月日	2020年8月1日
住居②	住居名	ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町2号館Ⅱ		
	所在地	広島市安佐北区狩留家町2903-1 2F		
	定　員	10名	指定年月日	2020年9月1日
住居③	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
同一事業所での実施サービス	共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員 ： 20 人　ユニット数 ： 2			
	短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　2 人　）			
	その他（サービス名・定員数：　人　）			

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	20 人（ 2023 年 6 月 1 日 時点）	平均在籍者数※1	17.7 人
１年間の入所者数※1	8 人	１年間の退所者数※1	4 人
年齢	20代以下： 3 人　30代： 2 人　40代： 2 人　50代： 7 人　60代以上： 6 人		
性別等	男性： 10 人 、平均年齢 52.2 歳　女性： 10 人 、平均年齢 46.4 歳		
入所の経路※1	入所施設： 1 人　病院： 1 人　他ＧＨ： 1 人　その他（ 自宅 ）： 5 人		
	相談支援事業所名： 安佐南区基幹・南区基幹・坂町社協・いくせい・いでした・らんたんなど		
退所の経路※1	入所施設： 人　病院： 2 人　他ＧＨ： 1 人　その他（ 自宅 ）： 1 人		
障害種別※2	知的障害： 13 人　精神障害： 5 人　身体障害： 5 人　難病： 人		

障害支援区分	区分無/1～2： 0 人　区分3： 4 人　区分4： 9 人　区分5： 3 人　区分6： 4 人
障害特性	医療的ケアを必要とする者 ： 0 人　強度行動障害のある者 ： 2 人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況
※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

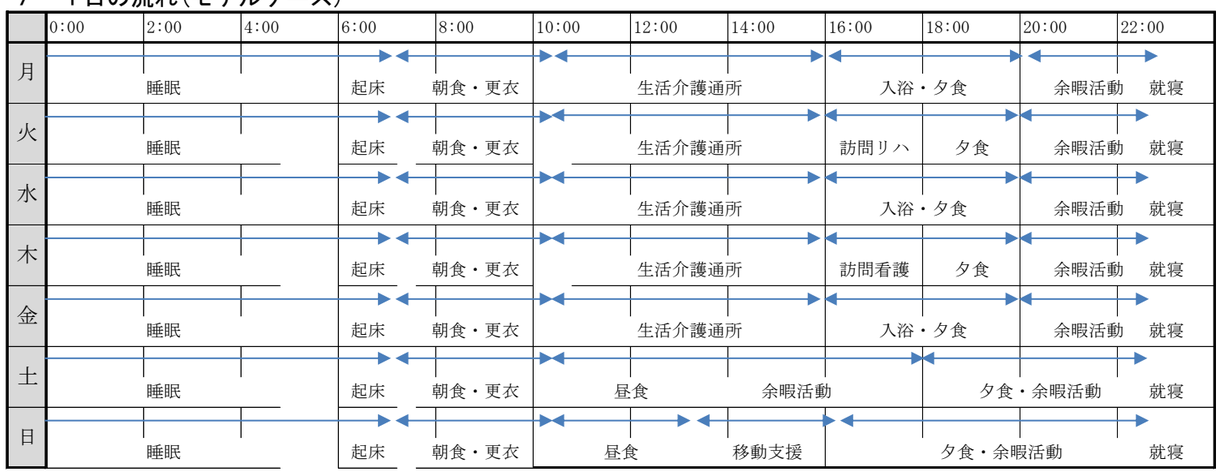
職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b		
世話人	c		
	d		
生活支援員	e		
	f		
夜間支援従事者	g		
	h		
その他（　　）	i		
	j		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 食事：食材業者に献立表付き食材を依頼。献立表は、食材業者内の栄養士が作成しており、献立表に合わせた食材を2～3日分ずつ分けて配送していただいている。毎食、届いた食材を職員が調理して提供している。 入浴：基本的には、毎日入浴していただいている。介助量の多い入居者様については、入居者様やご家族等と相談させていただきながら週3～4日の入浴としている。洗髪・洗身など、介助量に応じた支援を行っている。 排泄：身体介助が必要な利用者様への対応はもちろん、おむつ・リハパン・パットでの対応が必要な利用者様への支援も行っている。 外出：入居者様の買い物同行や買い物代行も職員配置を考慮して行っている。 余暇活動：日中活動への通所ができない入居者様に対しては、ゲーム・ぬり絵・折り紙などを提供している。定期的にレクリエーションを企画・実施している。（おやつ作り・七夕には短冊作りなど）
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 毎朝、職員によるバイタルチェックを実施している。また、訪問看護ステーションと連携して月2回訪問していただき、全入居者様の健康管理を行っている。入居者様の体調等について、常に相談できる体制を整えている。 定期受診など、通院同行を行っており、急な通院が必要な場合にも柔軟に対応できる体制を整えている。 希望される利用者様には、訪問歯科を受診していただけるよう、2つの歯科医療機関との連携も行っている。
運営	地域開放・交流	狩留家社協で開催される月1回の定例会には、可能な限り参加させていただき、意見交換・交流をしている。 新型コロナ感染拡大の影響で地域の交流が難しい状況の中でも、お声かけいただいた場合には積極的に参加している。
	家族会の開催状況等	ホームの家族会は開催されていないが、入居者様に変化があった場合などは、ご家族に連絡させていただき、支援方法の見直し・検討を行っている。
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 日中活動に通所可能な方は、積極的に参加を促しており、半数以上の入居者様が通所されている。平日は、日中活動に通所されることにより、規則正しい生活を送ることができるようになっている。安定した生活を送ることができるように支援を進めることにより、入居者様が社会との繋がりを持つことができ、地域意向・定着につながると考えている。

７　１日の流れ（モデルケース）



８　その他事業所のアピールポイント

広島県内に5つのグループホーム（日中サービス支援型4つ・介護サービス包括型1つ）を運営しており、入居者様がこれまでに生活されてきた環境をできる限り変えない形での生活維持を目指している。入居だけでなくショートステイ利用も柔軟に対応しており、複数のグループホームでのショートステイ利用により、入居者様・ご家族等のご希望に沿った利用をしていただける。
日中・夜間ともに、1フロアあたり2名の職員配置を基本として、入居者様の安心はもちろんのこと、職員にとっても働きやすい環境を作ることにより支援の質を高めるように取り組んでいる。
生活支援では、多機能型トイレ・リフト浴を設置して、重度の身体障害をお持ちの方にも対応することが可能。
JRの線路が近くにあるが、電車の走る音以外は、静かで落ち着いた環境での生活が可能となっている。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応
①利用者の受入 ・重度化・高齢化の課題を抱えている利用者や周辺の方々に貴事業所の機能が周知されるよう取り組みをお願いする。	①利用者の受入 ・狩留家社協の月１回の定例会議に参加。 これまでは職員の人員的に参加が難しかったイベントにも、できる限り参加して広く地域の方に認識していただけるよう努める。
・制度理解はなされているが、困難な障害者の受け入れについては、説明の中では積極的だとは感じられなかった。	・10名の入居者様との共同生活を送ることが可能であるかが最も重要であり、困難な方のお受入れには慎重になっている印象を与えてしまっているように考えられる。
②支援の実施 ・強度行動障害者への支援の記載が弱いような印象である。	②支援の実施 ・いわゆる問題行動を止めるのではなく、入居者様の欲求を満たすことを最優先に支援を進めている。 例えば、落ち着かない様子となった場合は、敷地内での縄跳びを勧めて落ち着きを取り戻せる支援をしている。
・行動障害のある方についての具体的な支援事例をいくつか紹介してほしい。	
・強度行動障害・医ケアの利用者の方が０人というのが気になる。本来日中型はこのような方が地域で暮らせる場所としての機能を備えることが重要ではないかと感じた。	・現在は、重度障害者支援加算対象の方2名にご入居いただいている。
③地域に開かれたサービス ・まずは挨拶からつながりのきっかけにしたらよいが、その後の展開は何か考えているか。	③地域に開かれたサービス ・ご近所の方から花の苗をいただくなど、交流は増えている。ホームでイベント(クリスマス会や夏祭りなど)を駐車場や庭を使って開催し、地域の方にも参加していただきやすい企画をしている。
④地域移行等の促進 ・退所者数が多いようだが、転帰先はどのようなところだろうか。	④地域移行等の促進 ・退居された方は、精神疾患の症状が悪化し、病院入院する方がほとんど。
・高齢化率の高い安佐北区であれば、農業（花を植える等も含む）のお手伝いという名目で地域に入っていくという手法もあると思う。頼りにしていただき、依頼されるようになると、障害のある方たちへの目も変わっていくと思っている。	・以前は、近隣のNPO法人にお声掛けいただき、なすの収穫などのお手伝いをさせていただいていたが、お手伝いできる利用者が少ないことや職員の人員確保が難しく、今年はお断りさせていただいた。来年もお手伝いの機会をいただけるよう、定期的にご挨拶をさせていただく。
・規則正しい生活が地域移行につながるという考え方は賛同できる。退所後もその地域に受け入れを求めるわけではないが、地域の方々とのつながりも視野に入れたらよいのではと思う。	・狩留家でのお祭りなどには利用者様をお連れして参加、地域の方に積極的に地域交流を図っている。
・家族会の実施をされていない理由を知りたい。実施を要望したい。	・家族会については、ご家族が高齢の方や持病をお持ちの方、遠方を理由にホームに来られることが難しい方が多いため、今のところ実施の予定はない。日々のご様子などはその都度、連絡をしており、ご家族にはいつでも気軽にホームに来ていただるよう対応している。

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	事業所管理業務・入居者への直接支援／介護福祉士	
サービス管理責任者	b	常勤	利用者の支援計画作成・入居者への直接支援／介護福祉士	
生活支援員	c	常勤	入居者への直接支援／准看護師	
生活支援員	d	常勤	入居者への直接支援	
生活支援員	e	常勤	入居者への直接支援／介護福祉士	
生活支援員	f	常勤	入居者への直接支援／介護福祉士	
世話人	g	非常勤	入居者への直接支援／介護福祉士	
世話人	h	非常勤	入居者への直接支援／介護福祉士	
世話人	i	非常勤	入居者への直接支援／介護福祉士	
世話人	j	非常勤	入居者への直接支援／准看護師	
世話人	k	非常勤	入居者への直接支援／准看護師	
世話人	l	非常勤	入居者への直接支援	
世話人	m	非常勤	入居者への直接支援	
世話人	n	非常勤	入居者への直接支援	
世話人	o	非常勤	入居者への直接支援	
夜間支援従事者	p	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援／介護福祉士	
夜間支援従事者	q	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援／介護福祉士	
夜間支援従事者	r	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援	
夜間支援従事者	s	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援	
夜間支援従事者	t	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援	
夜間支援従事者	u	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援	
夜間支援従事者	v	非常勤	夜間の見回りと入居者への直接支援	

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施計画書】

令和5　年　6月　20日作成

法人名　　社会福祉法人ぐくる
代表者名　　理事長　森島　幸則

１　当該事業を行う動機・目的

近年、まだまだ障害者の方が共同生活をする場所は少なく、兼ねてから法人内でご利用いただいている御家族の皆様より将来的にグループホーム（共同生活援助）を開設してほしいとお声をいただいており、設立にむけて法人としても障害者の重度化・高齢化に対応するためにご利用される方々が親元を離れても自立した生活を送っていただけるよう、24時間、サービスを提供することができる日中サービス支援型共同生活援助を運営していくこととしました。障害者の状況や体調などに応じたサービスを行うため、個別支援計画の策定を行い、健康面での管理、日常雑務などのサポートを行うとともに生活相談や入浴などのサポートを行ってまいります。また社会資源を活かして社会との関わりを持つことで安心した生活を送ることができると考えています。

２　当該事業の運営方針

グループホーム にこり・ほっとは、日中サービス支援型共同生活援助事業所（定員20 名）として運営してまいります。障害者の方々が、地域の一員として共に暮らすことを目指し、自立した生活が営めるよう支援していきます。一人ひとり尊厳ある個人として接し、必要に応じたサービスを提供し、満足が得られるように努めます。障害を持った方が地域の中で普通に暮らし、共同して自立した日常生活及び社会生活が送れるよう、利用者の身体及び精神の状況ならびにそのおかれている環境に応じ共同生活住居において相談、その他の日常生活上の援助を利用者の本意を聞きながら適切かつ効果的に行う事を目的とします。また、関係機関との連携にて受け入れの相談等に応じます。

３　事業所等の基本情報

事業所名		グループホーム　にこり・ほっと		
住居①	住居名	グループホーム　にこり・ほっと2階		
	所在地	広島県広島市安佐北区安佐町大字久地10177番地22		
	定　員	10名	指定年月日	令和4年8月1日
住居②	住居名	グループホーム　にこり・ほっと3階		
	所在地	広島県広島市安佐北区安佐町大字久地10177番地22		
	定　員	10名	指定年月日	令和4年8月1日
住居③	住居名			
	所在地			
	定　員		指定年月日	
同一事業所での実施サービス		共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員：　20　　人　　ユニット数:2		
		短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　4　人　）		
		その他（サービス名・定員数：　　人　）		

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	20人	平均在籍者数※1	20人
１年間の入所者数※1	21人	１年間の退所者数※1	1人
年齢	20代以下：　2　人　30代：　8　人　40代：　6　人　50代：　4　人　60代以上：　人		
性別等	男性：　10　人　、平均年齢　40.8　歳　女性：　10　人　、平均年齢　39.4　歳		
入所の経路※1	入所施設：　1　人　病院：　人　他ＧＨ：　1　人　その他（　自宅　）:19　人		
	相談支援事業所名：		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　人　その他（　）：1　人		
障害種別※2	知的障害：　16　人　精神障害：　2　人　身体障害：　2　人　難病：　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　3　人　区分3：　2　人　区分4：　4　人　区分5：　5　人　区分6：　6　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者　：　0　人　強度行動障害のある者　：　0　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況
※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	介護福祉士
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b	常勤	サービス管理責任者研修修了　相談支援従事者初任者研修修了
世話人	c	常勤	介護福祉士
	d	非常勤	ヘルパー2級
生活支援員	e	常勤	
	f	非常勤	介護職員初任者研修修了
夜間支援従事者	g	常勤	介護福祉士
	h	非常勤	ヘルパー2級
看護師	i	常勤	准看護師免許

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 日常生活全般における食事、入浴、排泄等の支援、介助を行います。また共同生活における楽しみ事として、お正月やお盆等、その季節に合わせた食事の提供やお祭り、クリスマス会等といった四季を感じられる行事、催し物の開催を行います。また個々の特性や能力に合わせた制作物（貼り絵、ぬり絵、折り紙など）や食事づくり、ボランティア活動（新聞破り、空き缶つぶし等）の提供と一人ひとりの興味、関心があるモノ、コトに対してプライバシーを尊重した環境を整え、安心した生活を送っていただきます。また買い物や通院等、必要な際は移動支援も柔軟に活用し外出支援等の屋外活動の対応を行ってまいります。（日中活動スケジュール参照）
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 協力医療機関と常駐している看護職員とが連携を図り日々の健康管理（バイタルチェック等）と急変時には救急時対応表に則ってスムーズな対応を行う。また、かかりつけ医との連携を図っていくためご家族へ日々の健康状態、薬の管理等について密な連絡を行う。
運営	地域開放・交流	地域避難スペースを開放し、地域の方々とのコミュニティの場として、定期的に茶話会や保健師の方をお招きして健康体操等の開催や福祉に関することで地域の方々のお困りごとがあればサロンを開いて講座等を開催いたします。また、災害時の避難場所として提供を行うとともに、自治会を通じて地域清掃や催しもの等があれば利用者の方と一緒に参加して交流を深めます。
	家族会の開催状況等	御家族の皆様より、ご意向をお伺いした上で家族会の立ち上げ、開催を検討する。また、開催のご意向がない場合でも定期的な懇談会を開催し運営状況等のご報告ができるよう取り組みます。
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 医療（協力医療機関、かかりつけ医等）、福祉（連携施設等）の関係機関、ご家族との協議を重ね、重層的な連携がとれる支援体制を構築します。また、地域生活の中で自治会（地域清掃、地域の催し物等）への参加と地域コミュニティ（茶話会、サロン等）の場を提供します、またボランティア活動等を通して社会との繋がりを支援します。

７　１日の流れ（モデルケース）

	0:00	2:00	4:00	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00
月	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	入浴・散歩	昼食準備	昼食・服薬・口腔ケア	自由時間	入浴・運動レク（風船バレー等）	入浴	夕食・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯
火	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	入浴準備・入浴	昼食準備	昼食・服薬・口腔ケア	自由時間	ボランティア活動（新聞やぶり・空き缶つぶし等）	入浴	夕食・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯
水	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	入浴・散歩	昼食準備	昼食・服薬・口腔ケア	自由時間	入浴・脳トレレク（クロスワード等）	入浴	夕食・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯
木	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	入浴準備・入浴	昼食準備	昼食・服薬・口腔ケア	自由時間	ボランティア活動（新聞やぶり・空き缶つぶし等）	入浴	夕食・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯
金	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	入浴・散歩	昼食準備	昼食・服薬・口腔ケア	自由時間	入浴・制作レク（ハガキづくり等）	入浴	夕食・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯
土	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	日中活動（買い物・ドライブ等）	昼食	自由時間・入浴	夕食準備	夕食・片付け・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯		
日	巡回	巡回	巡回	起床・着替え	朝食・片付け・活動準備	日中活動（料理づくり等）	昼食	自由時間・入浴	夕食準備	夕食・片付け・歯磨き・就寝準備	自由時間	就寝の声掛け	消灯		

８　その他事業所のアピールポイント

職員が24時間常駐させていただいており、さまざまな年代の方、中度の方から重度の方等、一緒に日中活動の場として、ご利用者一人ひとりのニーズに対応させていただきます。また、新しい生活の中で、終の棲家としてその方らしく生活を楽しんでいただくため、健康面では看護師を常駐し健康状態の確認や強度行動障害や視覚障害等をお持ちのご利用者がおられれば一定の専門研修を終了した職員が心を込めてサポートします。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	介護福祉士	
サービス管理責任者	b	常勤	サービス管理責任者研修修了	
世話人	c	常勤	介護福祉士	
世話人	d	非常勤	ヘルパー２級	
生活支援員	e	常勤		
生活支援員	f	非常勤	介護職員初任者研修修了	
世話人	g	常勤	介護福祉士	
世話人	h	非常勤	ヘルパー２級	
看護師	i	常勤	准看護師免許	
世話人	j	常勤	介護職員初任者研修修了・強度行動障害支援者養成研修修了・同行援護従事者養成研修修了	
生活支援員	k	非常勤	介護職員初任者研修修了・実務者研修修了	
生活支援員	l	常勤	ヘルパー２級	
生活支援員	m	非常勤		
世話人	n	常勤	ヘルパー２級	
生活支援員	o	非常勤	介護福祉士	
	p			
	q			
	r			
	s			
	t			

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

2023年8月17日作成

法人名　株式会社障がい者ライフサポート

代表者名　田中　秀治

１　当該事業を行う動機・目的

2007年から障害者福祉の仕事に携わることになった頃から、障害者の住居が不足していることをご家族などから聞き
自らも調べる中でとても重要な課題だと感じていました。その中でも特に重度障害者とそのご家族が抱えている不安は
切実なもので、2012年の創業当初から重度障害者向けに住居が提供できるようになりたいと思っていました。

２　当該事業の運営方針

「自分の家族も住ませたいグループホームになろう」を方針として運営しています。
特に重度障害者や自閉症の方に対して適切な介護・支援を提供できるよう適切な人材確保と入社後の研修を行っています。
また、関係機関とも積極的に連携を取りながら支援の質を向上していき、当事者とご家族に安心していただけるよう
運営しています。

３　事業所等の基本情報

事業所名		グループホームひといき		
住居①	住居名	グループホームひといき利松		
	所在地	広島市佐伯区利松３－２５－４３		
	定　員	9	指定年月日	2023年5月1日
住居②	住居名	グループホームひといき美鈴園		
	所在地	広島市佐伯区五日市町美鈴園２４－１２		
	定　員	9	指定年月日	2023年5月1日
住居③	住居名	グループホームひといき八幡		
	所在地	広島市佐伯区八幡１－２７－１６		
	定　員	10	指定年月日	2023年5月1日
同一事業所での実施サービス		共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員：　28　人　　ユニット数：　3		
		短期入所（　併設型　・　単独型　，　定員数：　3人　）		
		その他（サービス名・定員数：　　人　）		

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	28人（令和　5年　8月1日時点）	平均在籍者数※1	23.3人
１年間の入所者数※1	１人	１年間の退所者数※1	１人
年齢	20代以下：　5　人　30代：　9　人　40代：　5　人　50代：　3　人　60代以上：　6　人		
性別等	男性：　19　人　、平均年齢　41.4　歳　女性：　9　人　、平均年齢　43　歳		
入所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　人　その他(自宅　)：　1　人		
	相談支援事業所名：		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　人　他ＧＨ：　1　人　その他(　　)：　人		
障害種別※2	知的障害：　23　人　精神障害：　5　人　身体障害：　3　人　難病：　0　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　2　人　区分3：　人　区分4：　7　人　区分5：　10　人　区分6：　9　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者　：　0　人　強度行動障害のある者　：　12　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況

※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況

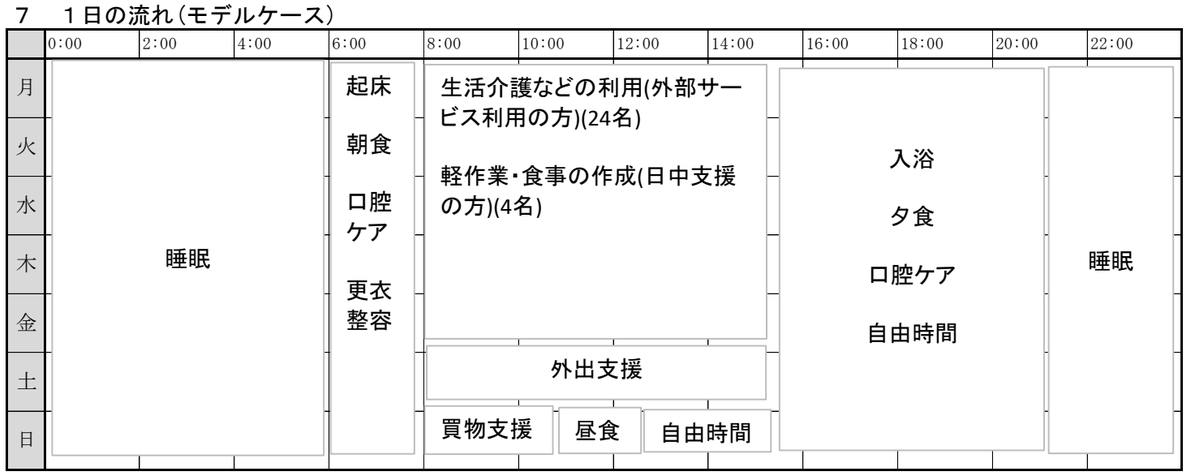
職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b		
世話人	c		
	d		
生活支援員	e		
	f		
夜間支援従事者	g		
	h		
その他（　　）	i		
	j		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 以下のような活動を行っております。 ・買物をいっしょに行う ・編み物をする ・絵画や工作活動をする ・料理のお手伝いをしていただく ・ボーリングなどをしに外出する
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 訪問看護に定期的に訪問してもらい、健康状態の確認を行っております。また希望者には訪問の歯科衛生も1カ月に1回行っております。 ご家族による通院が難しい利用者様には、通院付き添い介助を行い、医師に問診時に健康状態の報告をしております。
運営	地域開放・交流	近隣の方と挨拶を交わせる機会を設けるとともに、清掃による地域貢献を図ることを目的として、定期的に地域清掃活動に参加しております。(広島市ごみゼロキャンペーン)
	家族会の開催状況等	家族会開催希望のアンケートをとったところ、参加希望者が少ない為、現在のところ実施しておりません。
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 近隣住民からのクレームなどにスムーズに対応していけるよう「いつでも何か気になることがあれば連絡していただいて大丈夫です」と管理者の名刺を配り挨拶をしてまわっております。

７　１日の流れ（モデルケース）



８　その他事業所のアピールポイント

現在、住居としては利松、美鈴園、八幡と3カ所ありますが、合同で外出レクを行ったり、調理で作成したお菓子を持って行ったり、とそれぞれが交流できる場を設けております。また土日などで行うレクに関しては、ご家族も参加できるようお声かけさせてもらっています。負担にならない範囲内で、より多くの出会いからより多くの楽しみがうまれるようにと努めております。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応
・重度障害児者の行き場が少ない中でありがたいと思っている。医療的ケア児者の対応は難しいだろうか。職員に看護師の配置は難しいだろうか。 ・　胃ろうの対応ができない訪問看護ステーションとの連携では、医療的ケアができない。他のステーションとの連携をとるべきだと思う。 ・　日中活動について、本人の特性に合わせ、できることを行っているということだが、ただできることをやることが目的ではなく、そのことを通じてどのように本人の生活が豊かになるかが重要だと思う。 ・　コロナ禍での交流は難しいと思うが、町内活動に参加していくなど、自然な形で交流を図れればよいと思う。 ・　近隣の環境整備を地域の方々と共に実施できるとよいと思う。	・看護師の常時配置はできておりませんが、胃ろう対応可能な訪問看護、訪問診療との連携が図れないか検討はしております。 ・日中支援活動は、外部サービスへの利用への橋渡し的な意味合いもあります。ご自分ができる様々な活動を通じ、興味をもたれることがあれば、そこから外部サービス利用につながっていくという支援もおこなっております。 ・3住居とも町内会には加入しております。町内会での清掃活動にも参加しております。 ・町内会の清掃活動とは別に、広島市のごみゼロキャンペーンに参加し、適宜、近隣での清掃活動に参加し、地域交流を図っております。

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	介護福祉士・社会福祉士・強度行動障害	
サービス管理責任者	b	常勤	介護福祉士・強度行動障害	
生活支援員・世話人	c	常勤		
生活支援員・世話人	d	常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人	e	常勤	介護福祉士・強度行動障害	
生活支援員・世話人	f	常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人	g	常勤		
生活支援員・世話人	h	常勤	初任者研修	
生活支援員・世話人	i	常勤	初任者研修	
生活支援員・世話人	j	非常勤	強度行動障害	
生活支援員・世話人	k	非常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人	l	常勤	介護福祉士	
生活支援員・世話人	m	常勤		
生活支援員・世話人	n	常勤	実務者研修・強度行動障害	
生活支援員・世話人	o	常勤	初任者研修	
生活支援員・世話人	p	常勤	介護福祉士	
夜間支援従事者	q	非常勤	介護福祉士	
夜間支援従事者	r	非常勤	介護福祉士	
夜間支援従事者	s	非常勤	初任者研修	
夜間支援従事者	t	非常勤	介護福祉士	
夜間支援従事者	u	非常勤		
夜間支援従事者	v	非常勤		
夜間支援従事者	w	非常勤		
夜間支援従事者	x	非常勤	初任者研修・強度行動障害	
夜間支援従事者	y	非常勤	初任者研修	
夜間支援従事者	z	非常勤		
夜間支援従事者	aa	非常勤		
夜間支援従事者	ab	非常勤	介護福祉士・強度行動障害	
夜間支援従事者	ac	非常勤		
夜間支援従事者	ad	非常勤		
夜間支援従事者	ae	非常勤		
夜間支援従事者	af	非常勤		

（様式１）

【日中サービス支援型共同生活援助事業実施状況報告書】

令和5年11月2日作成

法人名　ソーシャルインクルー株式会社
代表者名　代表取締役社長　田中 浩一

１　当該事業を行う動機・目的

弊社はこれまで介護包括型でグループホーム運営を実施してきたが、より緊急性の高い利用者様・より重度の利用者様の受け入れに関して、介護包括型は日中の職員配置の想定がされておらず、職員配置と人件費の問題があり、一歩進んだ支援に対して踏み込めない状況であった。そうした経緯もあり、日中サービス支援型で事業運営することで、今まで受け入れが難しかった日中活動先のない方・日中活動が困難な方など、重度の利用者様の受け入れを積極的に進めていく。

２　当該事業の運営方針

住まいで困っている障がい者が「０」の社会を創ることを理念とする。福祉は、まだまだマイナスイメージや情報、課題が多い中で、弊社は利用者様・働く職員・福祉や介護の業界に関わる全ての方々と共に協力しながら成長し、社会に必要な基盤を創造し続けることを常に考え行動する。今後も全国で障がい者グループホームを展開して、知的・精神・身体の障がいの有無に関係なく、全ての人が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにすることで、社会に沢山の希望を届けたいと考えている。

３　事業所等の基本情報

事業所名		ソーシャルインクルーホーム広島坪井		
住居①	住居名	ソーシャルインクルーホーム広島坪井Ⅰ		
	所在地	広島市佐伯区坪井１丁目２７－７		
	定　員	１０名	指定年月日	令和3年6月1日
住居②	住居名	ソーシャルインクルーホーム広島坪井Ⅱ		
	所在地	広島市佐伯区坪井１丁目２７－７		
	定　員	１０名	指定年月日	令和3年6月1日
同一事業所での実施サービス		共同生活援助事業所（日中サービス支援型）定員：２０人　　ユニット数：２		
		短期入所（　　併設型　　・　　単独型　　，　　定員数：２人　）		
		その他（サービス名・定員数：　　人　）		

４　利用者の状況

在籍数(提出月の前月)	２０人（令和5年10月1日時点）	平均在籍者数※1	１９．２人
１年間の入所者数※1	４人	１年間の退所者数※1	４人
年齢	20代以下：　4　人　30代：　2　人　40代：　5　人　50代：　6　人　60代以上：　3　人		
性別等	男性：　20　人　、平均年齢　48.2　歳　女性：　0　人　、平均年齢　　歳		
入所の経路※1	入所施設：　1　人　病院：　1　人　他ＧＨ：　0　人　その他(在宅生活)：　2　人		
	相談支援事業所名：　生協ひろしま／KIZUNA／相談支援センターCLAP／セルフプラン		
退所の経路※1	入所施設：　人　病院：　1　人　他ＧＨ：　2　人　その他(入院中に死亡)：　1　人		
障害種別※2	知的障害：　6　人　精神障害：　11　人　身体障害：　6　人　難病：　0　人		

障害支援区分	区分無/1～2：　0　人　区分3：　9　人　区分4：　7　人　区分5：　3　人　区分6：　1　人
障害特性	医療的ケアを必要とする者　：　0　人　強度行動障害のある者　：　2　人

※1　提出月の前月から起算して前1年間の状況

※2　重複障害の場合は、それぞれに算入すること

５　職員の状況　⇒　別表にて記載

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格
管理者	a	常勤	
ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	b		
世話人	c		
	d		
生活支援員	e		
	f		
夜間支援従事者	g		
	h		
その他（　　）	i		
	j		

※　枠内に収まらない場合は、別表によること。

６　サービスの内容，事業所の特色等

処遇	日中における支援・活動（余暇活動、外出等）	【どのような支援・活動を行っているのか具体的に記載すること】 ・段ボール工作 ・折り紙 ・季節ごとに季節を感じられるような行事を企画中
	入居者の健康管理	【医療的ケアを必要とする者や強度行動障害のある者の健康管理のため行っている取組みを記載すること（医療機関との連携、医師・看護師の訪問状況など）】 ・協力医療機関による緊急の受診対応 ・訪問看護ステーションによる医療連携体制の構築（定期訪問／臨時訪問） ・各利用者が個人契約している訪問看護ステーション／訪問診療機関との連携 ・訪問歯科医療による訪問での歯科治療
運営	地域開放・交流	未実施 ※坪井中町町内会に所属しており要請があった際の地域活動への参加体制は構築している
	家族会の開催状況等	それぞれ遠方のご家族も居られるため未実施
	地域移行の促進及び地域定着に係る対応	【施設等からの地域移行の促進及び地域定着について、事業所として行っている取組みを記載すること】 ・希望があった方への見学の対応 ・過去（2021年度）には複数の入院患者に向けたオンライン見学会の実施

７　１日の流れ（モデルケース）

	0:00	2:00	4:00	6:00		8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00
月	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　送迎	就労継続支援B型通所			送迎	入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
火	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　リビングで談笑 買い物に外出		昼食　リビングで談笑 段ボール工作 折り紙			入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
水	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　リビングで談笑 買い物に外出		昼食　リビングで談笑 段ボール工作 折り紙			入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
木	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　送迎	就労継続支援B型通所			送迎	訪問リハ　入浴	夕食　談笑	オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
金	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　送迎	就労継続支援B型通所			送迎	入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
土	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　送迎	就労継続支援B型通所			送迎	入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝
日	就寝中 1:00／3:00　見回り	見回り 排尿確認	就寝中	起床 オムツ交換 更衣 清拭	朝食　リビングで談笑 買い物に外出		昼食　リビングで談笑 段ボール工作 折り紙			入浴　談笑　夕食　談笑		オムツ交換 更衣　居室でテレビ観賞	就寝

８　その他事業所のアピールポイント

精神障害をお持ちのご利用者様が多い事業所です。その中で、精神保健福祉士の資格を持っているサービス管理責任者・エリアマネージャーを中心に、関わり方・支援について検討をしております。また、グループホームとしては比較的有資格者が多い事業所であることも強みと思っております。今はまだ支援の面で、ご利用者様・ご家族・関係機関の皆さまへご迷惑をおかけしているところではありますが、管理者・サービス管理責任者を筆頭に支援について、検討・会議を重ねているところです。
また、弊社は全国で２００を超えるグループホームを運営しております。複数のグループホームの運営を通して、現状は広島県内の系列施設でのうまくいった対応・改善すべき対応については随時共有を行い、県内全域でより良い支援・グループホームの運営が行えるように日々研鑽をしております。

９　これまでの協議会の評価・要望・助言（２回目以降）

協議会の評価・要望・助言	事業所の対応
２　支援の実施 ・強度行動障害のある方への積極的・試行的な取り組みについて感銘を受けた。 ・行動障害のある方についての具体的な支援事例をいくつか紹介してほしい。 ・強度行動障害・医ケアの利用者の方が０人というのが気になる。本来日中型はこのような方が地域で暮らせる場所としての機能を備えることが重要ではないかと感じた。 **３　地域に開かれたサービス** ・挨拶以外の具体的な働きかけはあるか？ ・挨拶から町内の活動等に移行され、障害のある方たちが自然と地域の方たちの仲間になれるとよいと思う。 ・まずは挨拶からだが、その後は何か考えているのか具体案があれば聞いてみたい。 ・地域の組織や活動に参加し、住民に障害理解が深まるきっかけとなるよう、運営の工夫も検討していただきたい。 ・具体的な内容がなかった。 **４　地域移行等の促進** ・規則正しい生活が地域移行につながるという考え方は賛同できる。今後は受け入れる地域側にも目を向けてみてほしい。 ・具体的な内容がなかった。 ・入居について、早急な判断ではなく体験を通じて判断していくということは非常によいと思う。 ・家族会の実施をされていない理由を知りたい。実施を要望したい。	**２　支援の実施** ・強度行動障害をお持ちの方については2名入居されております。 ・行動障害の方の支援事例については、共有スペースでの放尿や他入居者様の居室の窓から離設が見られる方がいらっしゃった。原因を探り、他のご利用者様・職員の気を引きたい、関わりを持ちたいという気持ちからの行動と判断し、積極的にコミュニケーションをとることで問題行動が改善している。 **３　地域に開かれたサービス** ・地域住民がホームを訪ねるような交流の機会は設けられていない。坪井中町町内会には所属しているため、今後、ご利用者様とともに町内行事などには積極的に参加していきたい。 **４　地域移行等の促進** 地域移行について、受け入れる地域側に目を向けることは依然できていない。地域移行について、どういう役割を担えるか、まずは協議会や地域福祉センターが開催する研修会の参加や、協議会に参加させていただくことで、地域の生活支援の中核的な役割を担うための一歩としたいと考えている。 家族会については、遠方の方もいらっしゃること・コロナ禍でもあったことから、開催自体検討ができていなかった。まずはご家族に家族会のような企画を希望されるかどうかの意思確認から行いたい。

※関係書類を必要に応じて添付すること。

（別表）職員の状況

※資格の有無に関わらず、従業者全員について記載してください。

職種		常勤/非常勤	従業者の職種に係る職務と直接関係する資格	備考
管理者	a	常勤	介護福祉士	
サービス管理責任者	b	常勤	サービス管理責任者 精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士	
生活支援員	c	常勤		無資格
生活支援員	d	常勤	介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー２級） 移動介護従事者	小柳
夜間支援従事者	e	常勤	介護福祉士、相談支援従事者初任者研修受講済み	
夜間支援従事者	f	常勤	介護職員初任者研修修了	
夜間支援従事者	g	常勤		無資格
夜間支援従事者	h	常勤	介護職員初任者研修修了（ヘルパー２級）	
夜間支援従事者	i	常勤	介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー２級） 移動介護従事者 介護福祉士	
夜間支援従事者	j	常勤		無資格
世話人	k	非常勤		無資格
世話人	l	非常勤	介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー２級） 視覚障碍者移動支援介護従事者 全身性障害者移動介護従業者 サービス管理責任者（就労）	
世話人	m	非常勤	介護職員実務者研修修了 福祉用具専門相談員	
世話人	n	非常勤	介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー２級） 福祉用具専門相談員	
世話人	o	非常勤		無資格
夜間支援従事者	p	非常勤		無資格
夜間支援従事者	q	非常勤	看護師 介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー２級）	
夜間支援従事者	r	非常勤	介護職員初任者研修修了	
夜間支援従事者	s	非常勤	介護福祉士、相談支援従事者初任者研修受講済み	
夜間支援従事者	t	非常勤		無資格
夜間支援従事者	u	非常勤	看護師	
生活支援員	v	常勤兼務	サービス管理責任者、精神保健福祉士	
	w			
	x			

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町

１　利用者の受入

（評価ポイント）
・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　日中活動サービス等の支援計画などがどのように共有、実施されているのか。一つの機関だけでは重度者の対応は難しいと思うが、連携を感じられないため、どうなのかと思った。
・　意欲はあると感じられたので、相談をできると思う。
・　50 歳代以上が多い。精神科病棟からの入所を受け入れている。支援区分 4 以上が多い。
・　職員のスキルがないため、改善していくとのこと。
・　日中活動は職員が少ないが、制度上問題はないか。
・　強度行動障害支援者養成研修の修了者が少ない。また、体制整備と並行して現時点で苦しんでおられる保護者様、本人の利用ニーズがあるのに受け入れを躊躇しているのは福祉サービス事業者の姿勢としてとしていかがなものか。
・　重度化、高齢の方の受け入れを積極的にされようとしているのが伝わってきた。入所されている方がほとんど精神障害の方（病院からの紹介）ということで、精神の障害に特化されているのかと思うが、強度行動障害の研修を受けている職員もいるので知的障害の方の受け入れなど幅広い障害の受け入れを考えていただきたい。
・　今は精神障害の方の受け入れが多いが、医療的ケアが必要（たん吸引、胃ろう）な方も受け入れできる体制を整えてくださると助かる。
・　重度の方を受け入れる社会資源でありたい、という明確な思いを持たれていて、そうあるためにどうしたらよいかを考えられていることが伝わってきた。
・　在籍数、ショートステイの受け入れ状況から考えても積極的に受け入れていると思う。
・　強度行動障害の方が増えた際の事業所の夜間は施錠対応なのか、（飛び出し防止など）また、利用者間トラブルが絶えなかった場合、退所していただくことにはならないか。
・　積極的に受け入れを行っていることがよく分かった。入所の経路が精神科病院の退院者が多いということから、通過型のグループホームを目指しているとのことであったが、精神保健福祉士資格取得者がいなかったこと、職員配置に位置付けていく予定が聞かれなかったことが気になった。

２　支援の実施

（評価ポイント）
・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　職員さんの専門性と配置体制的に難しさがあると思う。
・　日中の勤務人数を伺うと、計画的に支援体制が整っていない印象を受ける。
・　精神保健福祉士はせめて１名、常勤の職員をお願いしたい。
・　強度行動障害の支援体制は職員に資格取得が少ない。訪看との連携は 24 時間対応とのこと。
・　限られたスタッフで最大限要望に応えようとする姿勢がうかがえた。一人一人に合った支援を心がけていることが伝わってきた。
・　12 名の職員（常勤 9、非常勤 3）の体制で日中の支援に 2～3 名であたっているとの事だったので、計画立てた支援が難しいなかよくがんばっていると思った。一方、更に充実した内容を取り組んでいくためには職員の増が求められているように思った。
・　職員体制の問題もあると思うが、日中に 20 人程度の入所者の方を 2，3 人で対応されるのはなかなか大変だと感じた。食事をつくる方、介助をする方、余暇の対応をされる方と分かれてしまうと、突発的な対応等が少し気になった。外部サービスや他法人の訪問看護さんとかかわりがあるのは外部の目があってよいなと思った。
・　集団プログラムに参加できていない自室の方への支援の個別の充実がみられない。
・　余暇活動に利用者個々のニーズ聞き取りができているのか不明瞭。
・　入居者各自の状況に合わせて日々メニューを考えていると感じた。他人と接することが苦痛とする方もたくさんいるので、無理に複数名参加のサービスをする必要もないと思う。
・　一人一人の利用者に合わせて対応されていることがよくわかった。レク活動が「集団活動」と捉えられていたので、見学等に貴事業所に行った際にあまりレクなどの様子を見かけていなかったが、事情がよくわかった。ありがとうございます。
・　常勤職員に通信制の介護福祉士、実務者研修をもっと提案すべきではないか。
・　事業所の協力医療機関だけではなく、利用者個人の主治医との連携を期待したい。
・　医療との連携について、訪看だけに頼られるのではなく、主治医との連携をもう少し密にされた方がいいのではないかと思った。
・　往診の体制は難しいか。高齢者の施設は往診してくれる提携医が多いイメージ。人員が少ない中で受診支援もするとなると大変だと感じた。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　時間がかかると思いますが頑張ってほしい。
・　家族会は今後範囲を広げて取り組んでいただきたい。
・　お祭り、清掃活動への参加予定、担当を決め家族、関係機関と積極的に連携を図っている。
・　地域の公園の清掃等に積極的に参加され、とても良い取り組みだと思う。
・　土地柄、市内中心部ということもあって、そもそも地域住民同士の交流も希薄なところもあるのでは？と想像されるが、しっかりと交流を深め、地域に位置づいていって頂けたらと思う。
・　地域行事への参加は一方通行では成立しないので、地域と話し合い、すこしずつ増やしていかれるのではと思った。
・　地域行事には積極的に参加されているとのことだが、具体的にどんな参加の仕方をしているのかもう少し聞きたかった。外に出るときはさらに体制を充実して支援する必要があると思うので、よくがんばっていらっしゃると思う。
・　まだあまり取り組みはされていないとのこと、今後街の清掃など考えておられるとのことなので頑張っていただけたらと思う。
・　地域のイベントに参加されるだけでは地域に開かれたとはならないと思う。Dr. の受け入れなど、施設側が地域の方に入っていただけるような仕組みづくりも大切だと思う。
・　外に出ていく事もだが、地域の人を招くのも検討してはどうか？
・　今回の説明からはあまり読み取れず、具体的に何をしているのか分からなかった。
・　目指されておられる、実際に地域活動をされることを期待したい。本川地域を中心とした連携。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町

３　地域に開かれたサービス（続き）

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　町内会には入会されているか？
・　貴事業所の利用者さんが地域の病院で受け入れられていることが分かり安心した。
・　事業所を開設されるときに、地域リーダーの方などへあいさつなどはされたか。まだであればこれからでも遅くはないと思う。どこの誰にすればよいかは区社協に相談されるとよいと思う。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　地域移行等をされておられるが、地域に向けて（地域住民や専門職など）への取り組み（精神障害者の方が地域で生活されやすくなるために）を行っていただけると良いと思う。
・　身辺の自立への取り組みなど良いと思うが、重度、高齢化への考え方がよくわからんかった。
・　地域移行はこれからも全国的な課題。家族会も応援する事があれば、積極的に行動する。
・　「親亡き後」を見据えて支援している。病院退院後の通過施設と考えている。
・　地域移行するには外部との連携がいるが、それに向けての人員が確保できていないのではないか。
・　「通過施設として」のコンセプトがあるのであれば、原則利用者にお伝えし、個々に移行の期間をアセスメントし、計画に反映させることが大切ではないかと感じる。
・　法人として通過施設（地域への）を目指すということだったので、色々なサービスなどと連携されながら進めていただきたいなと思った。
・　地域全体で支えるサービス提供体制や各基幹との連携を図る、地域生活支援拠点の取り組みに協力体制を整えるなどあるが、具体的な取り組みが記載されておらず残念でした。
・　それぞれのニーズに合わせて取り組まれていると思った。
・　GH としての意識は問題なく、今後どう発展されるかかと思う。
・　中核的な役割を担うのであれば、社会福祉士又は精神の資格があった方がよい。
・　説明でよくわかった。通過施設、終のすみか、それぞれ利用者さんの利用目的は異なる。
・　ADL の力の増進や自分で出来ることは自分でやってもらえるような取り組みをされていることがよく分かった。

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　アピールポイントにあった「全居室トイレ、独立洗面台」完備となっているが、あることによって「手を洗い続ける」「水を飲み続ける」等の弊害は出ないか。障害の特性ごとに配慮していただけるとよい。
・　重度の受け入れ、地域移行の促進など、ご本人の生活向上を目指されている様子が伺えた。
・　退所後の方向として、会社は何ができているのか？
・　退所され、別のグループホームに行かれた方の退所理由や夜間の急変の事例、夜間巡回での確認ポイントについて知りたかった。
・　いろいろな取り組みを一生懸命にされようとしているのを感じ、心強いなと思った。
・　法人及び GH の熱意ある取り組みを知ることができた。大変な点がいろいろあると思うが、今後の発展に期待している。
・　パンフレットからわくわくするような内容が盛り込まれており、さすがだなと思った。今後もぜひお願いしたい。
・　インドネシアの方の文化の違い等で支援に差が出ることはないか気になったが、今後の少子高齢化を考えると、東南アジアからのマンパワー充足は非常に重要かと思う。グループホーム運営内容含め、先進的な取り組みと感じている。
・　新しい GH も是非つくってほしい。GH のニーズは高いと思う。
・　日中の支援も充実させるためにはかなり厳しい職員体制の中で頑張っていらっしゃると思った。職員配置が基準通りかどうか聞きたかった。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームりらっくす南観音（有限会社リラックス）

１　利用者の受入

（評価ポイント）
・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　積極的に受け入れをされていると思う。
・　現在入所されている方については、通所する事業所がある方が多いとのお話だったが、制度の趣旨は理解されていると思う。
・　説明の中で、日中活動に通所される方が多く、在居の方が少ないとのことだったが、割と軽度の方の受入れがメインになっているように感じる。
・　入居が埋まってしまうと、新しい方の受入れが難しくなる。地域で一人暮らしをするなど、退所移行がうまく進めばよいと思った。

２　支援の実施

（評価ポイント）
・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　報告書の文章をもう少し具体的に記載されているとわかりやすい。
・　利用者の生活がマンネリ化しないよう、工夫のある余暇活動を提供されていると感じた。
・　ＧＨ以外に過ごせる場所を確保している。利用者が全員、何があっても支援できる体制が整っている。
・　ご本人、ご家族の話を聴き取られ、ご本人に合った日中サービスの提供ができていると思った。
・　外出活動など定期的に行っていて良いと思った。外出やイベントは入居者だけでなく家族も呼んでみたらいいと思う。
・　ほとんどが日中系サービスを利用しておられる方とのことで、風通し良く、様々な支援者と関わっておられると思う。
・　日中、通所先の事業所との連携について、どう考え、取り組まれているのか聞きたいと思った。同様に、個別支援計画の提示などにどう取り組まれているのかも知りたかった。
・　前回は家族会の開催が今後の課題とされていたようだが、個別で連絡を定期的にされている中で、家族の中からは要望として挙がっていないため、開催に至っていないと思った。家族から共通で挙がってくる要望があれば、開催を検討するので良いのではないかと思う。
・　家族会結成は昨今の情勢（当事者の家族は就労や高齢で家族会活動が困難）から不要。現在の対応（週末は当事者の帰省の受入れ等）で良いと思う。
・　家族会はなくとも、入所者の家族同士が交流できる取組があるとよいのではないか。余暇活動に一緒に参加するなど。
・　強度行動障害の研修修了者が少ない。職員の中で資格取得者が多ければ、支援体制をもっと充実できると思う。
・　今後ニーズが高まってくると思われる強度行動障害者への対応を充実させるため、職員への研修体制の強化を望む。
・　現在、医療的ケアを必要とする方が０人ということで、具体的に日頃から医療機関と協力体制を築いている説明はなかった。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　町内会の行事で、障害についての説明会などができたら良い。
・　町内会の入会、町内会活動を行うことから、地域交流をはじめ、障害等への理解がすすむなど住民、入居者相互の変化から、地域開放（地域住民がホームを訪れる）につながったらよいと思う。
・　町内会入会の件については、早急に話をすすめて、利用者の参加、活動の場が広がると良いと思う。
・　地域の活動は町内会だけではない。地区社協へのあいさつを行うことで、地域の活動に幅が出るのではないか。近くに保育園もあり、地域の理解が深まるとよい。民生委員への顔つなぎがあるとよい。
・　地域との関わりは「待ち」ではなく、事業の説明や「知って」いただくためにも、会合に顔を出す等、動かれてもいいのではないか。
・　地域の取組とコラボできることがあれば、良いのではないか。ＧＨとしてできること（場所の提供など）があれば、具体的に地域の方に伝えることで交流につながるのではないか。
・　地域の高齢者から困りごとの相談を受けて対応する等、地域のために何が貢献できるかを考え動かれると良いのではないか。
・　地域に認知していただき、交流に至るまでには時間を費やすと思うが、頑張っていただきたいと思う。
・　コロナも収まってきたので、町内会入会後には、地域の方々に施設内の見学等に来ていただくと、施設や利用者の方々の理解が深まるのではないかと思う。
・　事業所のスペースの問題もあると思われるが、地域住民に呼びかけて、事業所の利用者さんと交流するイベント（季節行事等）を企画されてはいかがだろうか。企画段階からかかわっていただけると良いと思うので、ぜひつながっていただきたい。
・　地域の方を茶話会やゲーム、交流にホームへ呼んでも、いきなりは来ないと思う。地域の幼稚園や保育園の子を呼んでみること等から始めるなど、工夫が必要だと思う。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　地域移行、地域定着とのつながりがみえない。
・　グループホームから地域で一人暮らししたい人への訓練、準備ができる場や、一人暮らし後も地域交流の一環で月一回の食事会に参加できるなど、緩やかな支援ができたら良いと思う。
・　実際に入所施設からの受入もされており、今後も受け入れのニーズは入所施設や病院等からあがってくると思う。一度受け入れた先の事業所とのつながり等が新たな利用等にもつながってくると思う。
・　引き続き、積極的に病院、施設といった場所と連携を図り、地域移行を進めていただければと思う。
・　実際に地域住民の方々にグループホームの見学をしていただき、グループホームに関する疑問や意見を伺う中で、地域定着を進めていくためのヒントが得られるのではないかと思う。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームりらっくす南観音（有限会社リラックス）

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　西区に初めて設置していただいた貴重な社会資源だと思う。高齢化を迎えられた人たちが安心して、地域の中で生活をされていることがよく分かる。
・　送迎付き添いの時の挨拶も、当たり前のことが日常的にかつ地域の方から声をかけてもらうこともあり、あたたかいところを感じた。
・　ご本人が地域のスーパーで買い物をされる、送迎ポイントまで毎日歩いていく様子を地域の人に見ていただく等、地域とともにあるグループホームを実践されていて素晴らしい。
・　入居された利用者の方の生活環境を守るために尽力されていると感じた。日中サービス支援型のグループホームが西区にもっと増えると良いと思う。
・　入所者が楽しくなる取組がされており、生活しやすい印象を受けた。入所者が一緒にできることが増えるといいなと思う。
・　“家庭的な雰囲気”は、口頭説明の中でも、報告書でも感じ取ることができた。
・　短期入所をもっと利用しやすくしていただけたら嬉しい。
・　引き続きサービスの展開を図りつつ、町内会単位における地域での障害者貢献の中核的な存在として頑張っていただければと思う。
・　「施設は自由がない」という利用者の声を聞いたことはあるが、日中活動やイベント、誕生日にプレゼントといった行事があり、聞いているだけで楽しそうと思った。
・　地域に根差したオープンなグループホームを目指すためには、地域住民の方との日ごろからの関わりがとても必要であると思った。風通しの良い環境づくりが大切だと思う。
・　重度、高齢の方の安心した生活のためのご支援をしてくださっていると思う。
・　イベントの企画、開催により、生活にメリハリがついているように思う。
・　入居された後の生活について、生活の質を高められるよう、ＧＨでお困りのことなどがあれば、私たちも一緒に考えていけたらよい。
・　高齢者と強度行動障害のある方が共同生活するのは難しいというのは、地域の課題でもあると感じた。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームりあん（株式会社Ｍｅｒｃｉ）

１　利用者の受入

（評価ポイント）
・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　施設又は病院からの移行や在宅生活が様々な理由で困っておられる方に対し、体験等を実施してから本人の意思を主として、他の入居者との障害特性等のバランスを確認しながら判断していることについては事業所としては配慮すべきことであり、そういった面で入居者の定員を満たしていない原因の一つだと考えられるが、本人の意思を尊重して、積極的な受け入れをしていくという姿勢については評価できる。
・　積極的な受け入れ姿勢はとても良いと思う。他の入居者との障害特性等とのバランスについても、支援者としては、非常に気になることであり、できるだけ受け入れる姿勢が見受けられ、事業所内で工夫もされていることに対しては非常に良いと思うが、このような姿勢を今後も継続され、事業所としての経験や実績を積み上げていく中で受け入れの幅を拡げていただきたいと要望する。

２　支援の実施

（評価ポイント）
・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　入居者４名中２名は、本人の意向や特性も考慮した上で通所できる事業所等を模索しているが、まだ通所までには至っていない。
・　休日等の過ごし方についても、集団生活を基本とせず、個々の意向を主として、集団、個人として、また、障害特性も配慮し、外出等を希望する入居者に対し、一人での外出は現段階では難しい場合など、「無理」ではなく、併設する訪問介護事業所を利用しての外出支援等の代替え案等を提案し、想いの実現をしていくなどの個々の過ごし方に合わせた支援を展開されている点では、入居者にとって有益な支援につながっているのではないかと感じた。
・　現状としては、常時、医療的ケアを要する利用者はいない。体調不良時には、近隣の内科に協力医になってもらっており、健康管理を行っている。精神科については、罹っている方、そうでない方がいるが、指定せずそれぞれの意向により通院している。
・　通所できる事業所については、個々の意向や特性を考慮した上で模索されていることは、非常に重要であると思うが、事業所単独で探すだけでなく、相談支援事業所や地域部会等に参加し、他事業所との横の連携を図り、情報収集をしながら模索していくという方法もあるのではないかと助言する。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　地域の「清掃活動」への参加を検討し実施したが、個々の特性等により入居者から「怖い、難しい」という意見であったり、地域住民も接し方がわからず、戸惑い、壁があるように見受けられたため、現在は参加を見送っている。
・　しかし、時の経過とともに、地域住民から声をかけていただいたり、施設の見学に来られることもあり、とてもありがたく、少しずつ地域に受け入れられているという感覚はある。
・　今後も住民からのアプローチを積極的に受け入れながら、少しずつ地域との接点を多くしていきたいと考えている。このことについては障害特性等や地域もどう接してよいのかわからないという双方の課題があるが、現状をよしとするのではなく、地域との接点を作っていこうとする姿勢は評価できる。
・　町内会に入って活動に参加するなどができれば理想的かもしれないが、現状として、入居者と地域住民との双方に壁があり、課題となっているのではないかと思う。
・　しかし、地域住民は少しずつかもしれないが、日々の生活を送る中で、GH とそこに住む入居者に関心を持ち、声をかけてくれたり、見学しに来てくれたりという、地域の前向きな反応ととらえ、利用者側も無理する必要はないが、地域の行事等の楽しめるイベント等に出向き、少しずつ面識を持ち、地域に溶け込めるような取り組みをしてはどうかと助言する。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　施設や病院からの依頼については、受け入れ対象の障害者であれば、障害程度に関係なく、体験してもらい、本人の意向と他の入居者との相性等のバランスも見ながら、積極的に受け入れる方針で GH を運営しているが、GH の気持ちとしては、障害程度は関係なく、在宅で親が高齢等の諸事情で現に困っているという方を優先していきたいと考えている。
・　このことについて、実際、区分６又は５で強度行動障害のある方を受け入れておられ、対人トラブルが起きないように個々に配慮されていることは評価できる。
・　また、行動障害等の課題が多ければ多いほど、地域との接点等を作っていくこともへの難しさもあるが、あきらめず取り組まれていることは非常に評価できる。
・　障害の程度に関係なく地域生活が継続できるように取組まれており、良いと思うが、まだ開所して間がなく、自信をもって地域生活支援の中核を担う取り組み行っているということはできないと思われる。
・　ただ、現段階で事業所としての理念や方針を守りつつ支援を行い、地域との関係性もまだまだな部分は自覚されつつも、少しずつ良い方向に向かっているということも感じておられる。
・　このようなことから、今後も薄れることなく理念や方針に基づいた支援を継続され、また質の高い支援として発展していくために、関係機関等との連携も図ることも有効であることを助言し、気づいたときにいつの間にか地域生活支援の中核として支援ができているというような事業所になってほしいという期待を込めた要望をした。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームりあん（株式会社Ｍｅｒｃｉ）

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　訪問介護事業所の運営で培われた経験や実績を基に障害特性等に配慮した支援を展開しておられると感じた。今後も積極的な体験利用等を実施し、地域生活支援を実践していく方針であり、今後、入居者が増えていくことでの支援の課題等が出てくることを踏まえた上で、時間をかけてでも、入居者個々のより良い地域生活と GH での集団生活の楽しみ等（GH でのイベント等）を模索しながら支援を実践していく意思も強く感じた。

・　このことを継続しながら、現在は事業所としてできることをされていると思うが、地域部会等々を通じて、地域の同業他社や福祉サービス事業所、相談支援事業所等の関係機関との横のつながりと連携により、他事業所の取り組みを知り、自事業所の取り組みの成果や課題に気付くなどの振り返りを行いながら支援を行うことで、より質の高い支援につなげることができる事業所だと感じた。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	ソーシャルインクルーホーム広島狩留家町２号館（ソーシャルインクルー株式会社）

１　利用者の受入

（評価ポイント）

・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　区分の高い方も受け入れており、積極的に取り組まれていると感じた。
・　データ的には高齢の方が多く、高齢化に向けた体制は割と整っている印象だった。
・　事業所としては重度の方を積極的に受け入れたいと考えられているが、他の利用者との兼ね合いで難しいのが現状であることが分かった。

２　支援の実施

（評価ポイント）

・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　入居者別で支援内容を工夫されている様子が見られた。
・　日中の余暇活動として、入居者全員でできるものを考えられているのが分かった。
・　利用者同士や利用者とスタッフ間で交流が生まれるような施設内プログラムの実施に引き続き取り組んでいただきたい。施設内プログラムへの参加に消極的な利用者にも、本人の負担にならない範囲で声掛けをしていただくとよい。
・　本人が望む日中活動、外出の確保が出来ているかについて、引き続き確認と調整をお願いしたい。
・　重度の方への個別的な配慮がどこまでできているか分からない。個々の特性を理解して個別的なプログラムが提供できないと強度行動障害の方への支援は難しいと感じた。
・　説明の中では、強度行動障害のある方への支援体制が十分に確保されているように感じなかった。
・　人材不足の中で工夫して常時２名配置を継続されているのはすごいと思う。今後は男性入居者の高齢化に対応するための体制づくりなど準備が必要だと思う。
・　職員の負担軽減のためにも、担当相談員、主治医、訪問看護師、地域の支援機関と連携して情報共有を行い、支援に生かしてほしい。
・　医療ケアの必要な人についての支援についても、考えておいていただきたい。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）

・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　利用者がホームを出て自然と交流できる機会をつくってほしい。
・　もう少し具体的な事例などがあれば伝えてほしかった。人材確保の課題もあるとのことだったので、入居者を連れ出すよりかは、地域の方々に来ていただく取組の方が良いのではないか。
・　移動販売車の利用をきっかけに地域交流が生まれているとのことで、良い取組だと思う。
・　時間はかかると思うが、引き続き地域活動に参加していく中で、交流の機会、地域で相談できる人を見つけてほしい。
・　地区社協をはじめ、地域とのつながりを大切にされているのが分かった。
・　地域へ入ることも大事だが、地域の方が気軽に来てもらえるようなイベントを実施してほしい。
・　職員が入居者と地域へ出向いて交流することが体制上難しいという話があったが、地域の方から出向いてもらえるような行事を企画し、呼びかけを行う意向を確認することができた。
・　地区組織と連携し、施設見学や施設説明の機会を積極的に作り、施設について知ってもらえるような取組を行っていただきたい。
・　農業のお手伝いという名目で地域に入っていくことを実践してほしい。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）

・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　地域のいろいろな資源を確認しながらつながりを増やしていってほしい。
・　退所者の退所理由を分析し、次の支援につながる学び、対応ができるための準備等を行ってほしい。
・　個々の利用者について関係機関とどのように連携されているかなどを知れるとよかった。
・　難しいケースで退所があったようだが、ふりかえりや支援方法の工夫など検討していただけるようで安心した。
・　簡単に地域移行は難しいと思う。能力を見ながらの自立に向けた支援の様子を聞きたかった。

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　立地条件を原因とするマネジメントの難しさが理解できた。
・　地域の専門職として、障害分野の理解を伝えていく必要が自分自身にもあると感じた。
・　とても分かりやすい説明で、工夫されているところもあり、聞きやすかった。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームにこり・ほっと（社会福祉法人ぐくる）

１　利用者の受入

（評価ポイント）
- 日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

- 障害認定区分の低い方の入居もおられるようなので、重度の方の積極的な受け入れも検討していただきたい。
- 入所があらかじめ決まっていた利用者を対象としているため、消極的だと思った。
- 積極的とは言い難いが、徐々に重度化・高齢化を意識した受け入れ体制を整えてほしい。
- 入居時から「終の棲家」とするのではなく、それぞれの個別性や状況に応じた住まいを検討する視点も持って支援していただくと良いと思う。
- 施設の立ち上げの経緯があり、既に満床であるが、常に風通しの良い運営となるよう心掛けをお願いしたい。また、運営が固定化しないように、利用者、家族の声等を聴く機会を設け、運営にも反映していただきたい。
- オープン時から常に満床を維持されており、空きが出た際に重度の方を積極的に受け入れる意向があるかどうかについては、説明の中から読みとることはできなかった。
- 常勤の看護師がいるが、医療的ケアを必要とする利用者がいない理由を知りたかった。

２　支援の実施

（評価ポイント）
- 利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
- 利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
- 強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
- 協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

- 日中活動サービスの利用者は全員同じ事業所を利用されているということだったので、利用者の希望により他事業所も選択できる体制を積極的に整えていただくと良いと思う。
- 利用者が法人内・外問わず、本人が望む日中活動を選べるための情報提供、仕組みが必要。選択した際の支援も大切にしてほしい。
- 本人による日中活動の選択ができないのが問題だと思う。
- 利用者目線の発表が少なく、誰のためにホームを作られたのか疑問に感じた。
- 入居者の障害種別から知的障害者が多いので、特性や好みなどを反映しながら、一律の支援ではなく個別の支援を継続してほしい。
- 地域に外出しても問題ない様子は良いと思う。周囲の受入れのコミュニケーションが大切。
- 今後は、日中活動サービスを、いろいろな事業所を選択できるようになったら良い。
- 買い物やドライブ、野菜づくりなど、積極的に外出の機会を設けておられる。
- 強度行動障害のある方への支援体制の確保については、読みとれなかった。
- 今後、入居者が重度化や医療の支援が必要になる可能性もあるので、体制を整えてほしい。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
- 地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

- 立ち上げ当時から、地域の方々との関係構築に工夫されてきたことが伝わってきた。地域との相互理解の継続をしていただきたい。地域交流の部屋もあるとのことなので、社協などと協力しながら有効活用していただきたい。
- 地域の清掃活動へ参加するなど、地域とつながるための取組をされていることは良いと思う。今後、コミュニティの場としての活用を検討していることも良いことだと思う。ぜひ実現に向けて地区組織団体としっかり連絡調整を行い、団体の思いも汲み取りながら計画をしてほしいと思う。
- 時間はかかると思うが、引き続き、相互理解が深まるように、交流の機会をもっていただくことを続けてほしい。
- 建物を建てる前にもう少し理解を深めておく必要があったように思う。
- 団地自体の高齢化問題もあり、地域住民との交流の機会は少なくなるのではないかと思った。
- まだできて間もないが、地域の説明会で要望を多く受けたりして工夫しながら生活になじもうとされているのが分かった。その一方で、地域の人との交流には今一歩足りないところがあるのでは、と思った。
- これから交流を目標にされるとのことで、次回、どのようなことをされたのかを伺いたい。
- 地域住民の障害者への偏見がとれてきた段階かと思う。今後は、徐々に地域に溶け込める活動で良いと思う。
- 施設建設時から、地域の意向に耳を傾けられ、対応されている様子がうかがえた。このような対応があったからこそ、徐々に地域の理解が得られ、清掃活動や地域行事への案内がきているように思った。説明の中から、地域行事への積極的な参加の意向が確認できた。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
- 施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

- 短期入所の状況は触れなかったので、実情はどうなのか知りたかった。病院や施設などからの入居はなかったので、その分短期入所で役割を担ってほしいと感じた。
- 入居案内の際に、利用者や家族にも日中サービス支援型グループホームとしての役割や目指す方針などを説明して理解を得ておくと、より取り組みやすいと思う。
- 障害種別について、幅広く受け入れられるように職員への研修の機会、学びの機会を大事にしてほしい。
- 今後の取組の見通しの説明がわかりづらかった。
- 将来的な計画性がみえず、あまり積極性を感じなかった。
- 地域への理解のための講座などをおっしゃっていたので、ぜひ積極的に考えていただければと思う。
- 上記３のような取組が進むことで、徐々に地域の理解が得られ、施設等からの地域移行の促進が進んでいくのではないかと感じた。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームにこり・ほっと（社会福祉法人ぐくる）

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

- 　いろいろな課題はあると思うが、独居生活が困難な方々の生活の場を作っていただけることはありがたく、ご家族も安心されていることだと思う。人材の確保や育成も含め、利用者の方々が楽しく過ごせるように連携が出来たら嬉しく思う。
- 　グループホームに入れたいという保護者のニーズに応えて事業をおこされ、保護者のニーズは満たされたと思う。今後は利用者の家である、活動場所であるという視点を再確認して、環境や事業内容を作りかえていただきたいと強く希望する。
- 　全体的に見て法人としての具体的な取組がみえない印象だった。
- 　日中活動先として一か所のところに全員で出かけるとのことだったが、利用者の方の出かける場の選択肢が増えると良いと思った。
- 　地域とのつながりとか交流とかよく言われるが、現実には障害者への偏見が根強いことのリアルな話が聞けて良かった。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームひといき（株式会社障がい者ライフサポート）

１　利用者の受入

（評価ポイント）
・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　身寄りのない利用者様も多く、ご家族での通院介助が難しい方だけでも、通院の支援をもう少し柔軟にしていただけたら助かる。
・　他害のある方などの受け入れが難しいようであるが､事業所で改善をしていこうと努力をされている。
・　重度の方や行動面で課題のある方に対して、アセスメントを行った上で、利用者の方のエンパワメントを活用しながら、集団適応を促していきたいという姿勢を感じた。また、住居ごとに利用者の方の特徴をグループ分けすることで、幅広い利用者の受け入れにつながっていると思った。
・　積極的に受け入れをされており、グループホームの入居は満床とのこと。１１月にも新しい事業所が開設予定で、地域で暮らす障害者の方にとって大切な社会資源になると思う。
・　高齢の方、強度行動障害の方を入居者として対応されている。また、ただ受け入れているだけではなく、利用者の出来ることを伸ばしていくという視点での関わりを持ち、他利用者とのつながりも意識した関わりを持てている。
・　グループホームのエレベーターでは、大きめの車椅子の方が介助者と一緒に乗ることが難しい中で、いろいろな障害の方々の利用の相談を受けてくださってありがたい。

２　支援の実施

（評価ポイント）
・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　住居によって自立度の違いがあり、個別への対応を中心にしていたり、ティータイムなどの時間を設けて利用者全員が参加出来るゲームをする等、それぞれのカラーがあって良い印象だった。
・　各利用者の生活リズムや能力に応じたサービスに努め、屋内外でのレクや生活訓練を行っている。
・　外出や製作、また調理など利用者の方に合わせて幅広い活動を用意されていると感じた。また、集団と個別のそれぞれの良い面を理解し、状況や利用者さんの要望に合わせて柔軟に用意されていた。
・　強度行動障害の方にも役割をもって対応されていることは素晴らしいと思う。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者が複数配置されている。また、訪問看護に定期的に訪問してもらい、健康状態の確認がされている。
・　報告書では職員の中で強度行動障害研修の修了者の割合が少ないように感じる。
・　強度行動障害に近い方も一度は受けていただいたこともあるが、利用につながらない件もあり、職員さんのスキルアップも必要かと思う。
・　看護師の配置はなく、喀痰吸引、胃ろうの方など医療度が高くなった方は病院へつないだとのことであり、医療的ケアを要する方の受け入れは困難な状況とのこと。
・　身体状況が変化し、医療的ケアが必要になっても退居せず過ごせるような看護師配置や連携をとってもらいたい。
・　利用者様の障害特性に配慮しながら個別対応している。病院受診もご家族が行けない場合は職員で対応し、家族、医療機関と連携している。
・　訪問看護や訪問歯科衛生を行い、必要であれば通院介助も行っている。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　管理者さんがその都度対応されておられるようで、地域の方も安心と思う。
・　地域の方との関わりについては、苦労されているなと感じる。
・　地域の清掃活動に定期的に参加しているため、交流の機会はあるが、近隣のクレームがご利用者の行動抑制につながる等の課題がある。
・　地域の清掃活動などに希望者の方が参加されるなど、今後広がっていくことを期待する。
・　コロナ等の感染対策もあるが、今後も地域に出かけたり、地域行事、イベントに参加できたら良いと思う。
・　住居侵入、放尿、騒音などのクレームもあり、対応に苦慮されている様子。対応として、近隣へ管理者が出向き、顔の見える関係を築く努力をしている。
・　清掃活動や町内会の加入など十分に取り組まれていると感じた。
・　まつりやイベント等で地域の人がＧＨのことを知っていただく機会があれば、クレームの減少や理解促進につながる可能性があるかも。
・　施設や病院との連携がなされているかは不明。
・　地域住民がホームを訪れるまでの関係性は築けていないが､「気になることがあれば連絡ください」と名刺を持って回り、地域住民との関係性を築こうと行動している。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　今後新たにショートステイ、ＧＨの事業所を増やしていく予定の話などもあり、地域での役割を担っておられると思う。職員の方のスキルアップも含め、多様な利用者の受け入れをお願いしたい。
・　利用者が自由に外に出て、近所からのクレームに苦慮されているが、近所に名刺を配り、前もって大事にならないように対応されている。
・　積極的な受け入れもしており、利用者が地域で生活を継続でき、安心して暮らせるサポート体制ができている。
・　イベントや清掃等に参加をする、ということだけではなく、主催者側になりボランティアの方に参加してもらうことで、地域での中核的な役割も担える力があるのではないかと感じた。
・　それぞれにできる役割を担っていただく方針があるということだった。役割を持つことは生活のハリや生きていく上でとても大切なことだと思うので、これからも続けていただきたい。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	グループホームひといき（株式会社障がい者ライフサポート）

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　重度の方の受け入れもされているイメージがあり、今後事業所を増やしていかれ、もっと受け入れをしていただければ嬉しい。
・　事業所でいろいろご苦労や工夫をされていることがわかった。今後、事業所でもすすんで研修などしていただき、地域で生活されている方、これから自立されていく方などの支援をお願いしたい。
・　課題はあるが、本人主体のタイムスケジュールや活動を支援しており、自主的な取組を引き出すことができていると思った。
・　医療度が高くなった場合（淡吸引、胃ろう等）の対応、感染症が広がった際の支援員の人員確保が課題である。
・　今後、事業を拡大するうえで抱える事業者様の不安や実情を知ることができ、大変参考となった。
・　現在、児童の保護者の方の相談・支援をさせていただくことが多いが、地域の中で必要な支援を受けながら、自分の力で生活をしていく様子を紹介させていただきたいと感じた。
・　写真や動画を見させていただいて、利用者のことを大切に支援されていることが分かった。地域からのクレーム等に対し、対応を工夫されている。
・　ホーム名の「ひといき」の「一人ひとりがいきいきと」という思いを実践されている取組を聞くことができた。
・　動画を交えて、日中活動や普段行っている利用者へのかかわりを説明してくださったのは分かりやすく、とてもよかった。
・　強度行動障害の方への対応も、研修を受けた方が増えていく中で、利用者、スタッフ双方にどのような変化があったのかも聞いてみたかった。
・　会社としても地域で何が必要かを常に考え、実践されていることが分かった。その方それぞれが色々な選択肢を持てるようにこれからも取り組んでいっていただきたい。
・　問題行動のある利用者が地域に出ることで周りの住民に迷惑をかけてしまうことについては、事業者だけでなく、行政も一層障害者の問題行動についての理解を深める運動の場が必要。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	ソーシャルインクルーホーム広島坪井（ソーシャルインクルー株式会社）

１　利用者の受入

（評価ポイント）
・　日中サービス支援型共同生活援助の制度の趣旨を理解し、重度化・高齢化のため日中活動サービス等を利用することが困難である障害者を積極的に受け入れているか。

評価・要望・助言

・　強度行動障害を有する方を２名受け入れられている。本人とのかかわり方を変える等、行動変容への取り組みがなされている。
・　困難ケースなどの方も受け入れており、問題ないように思う。
・　以前と比べて高齢の方、強度行動障害の方を入居者として対応される数が増えてきている。
・　体位変換、身体的介助も行ったり、強度行動障害など課題の多い人を受け入れている。
・　強度行動障害のある方や医療的ケアが必要な方の積極的な受け入れがなされている。
・　緊急性のある場合や重度の障害のある方の受け入れを積極的に行っている。
・　今後、重度化・高齢化する利用者も多くなってくると思うので、それに対応した設備も必要になってくると思う。
・　報告では、多様な障害特性を持っておられる方々を受け入れられている。ショートステイに関しては、身体障害の方も多いと思われるので、電動ベッドの常設があれば助かると思う。
・　行動障害のある利用者の方に対して、原因の仮設と実践を通して改善が見られたことは評価されると思う。今後とも実践を通して支援力を高められることを期待する。

２　支援の実施

（評価ポイント）
・　利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、日中における余暇活動や外出等の社会生活上の支援を行っているか。
・　利用者の意向に反して日中活動サービス等の利用を制限していないか。安易に住居内で生活を完結させていないか。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者の配置等により、強度行動障害のある者への支援体制を確保しているか。
・　協力医療機関等との連携により、利用者の心身の状況に応じた医療ケアを行っているか。

評価・要望・助言

・　利用者の希望に沿った日課が組まれている。
・　日中の余暇活動の課題はあるものの、利用者の方々のペースに合わせた支援をされている様子。
・　日中活動で提供する内容があまりないと言われており、以前ショートステイを利用された方が日中何をしてよいか分からなかったと話されていた。フロアに出にくい方、初めて利用される方には声かけが必要ではないかと思った。
・　何か目的を持って活動する時間などのプログラムや支援があったら、より過ごしやすくなるのではないかと思う。
・　日中活動でレクリエーションができていないとの報告があったが、利用者ごとにアセスメントの中で日中の過ごし方の意向を聞き、その人に合わせた活動や活動への環境設定ができたら良いと思う。
・　レクリエーションができていないため、定期的な行事開催が利用者の楽しみとなるようにしてもらいたい。
・　利用者がやりがいや達成感を持って取り組める活動を見つけることは大変だと思うが、まずは利用者の興味や関心についてアセスメントを行い、実践を積まれていくことを期待する。
・　強度行動障害支援者養成研修修了者は配置されていない様子であるが、精神保健福祉士の有資格者を中心に支援体制の検討がなされている。
・　放尿、離設などがみられる方への再アセスメントを行い、関わり方への工夫から問題行動が減少してきているのは良い印象だった。
・　医療機関と訪問看護の連携体制が整えられている。
・　医療的ケアが必要な方への対応の難しさを感じた。
・　協力医院や訪問看護によって健康維持に努め、歯科医の往診も行っている。
・　医療ケアを要する方に関しては、実際にどの程度まで受け入れが可能なのか不明だった。

３　地域に開かれたサービス

（評価ポイント）
・　地域住民がホームを訪れる、または利用者の地域行事への参加を促進するなどの取組みを行い、地域住民との交流の機会を確保しているか。

評価・要望・助言

・　地域の町内会に加入されている。今後、地域行事に積極的に参加されるとのこと。
・　コロナのこともあり、地域のお祭りの参加などしていなかったが、今後は地域行事にも参加されていく意向もあり、前向きに活動に参加されていくのではと思う。
・　地域交流は未実施だが、坪井中町町内会に所属されているため、参加できる体制は整えられている様子。町内清掃など少人数での参加から実施されるのも良いかと思う。
・　挨拶等の交流は行えておられるようです。近隣に公民館や神社もあり、何か一つきっかけがあれば交流の機会になるのではないかと感じた。
・　離設した方がいた時に、近所から連絡があったとのことで、普段から地域とのつながりができていると思う。
・　地域のイベントや行事に参加したり、外出等で地域に出かけて交流の機会を確保できたら良いと思う。
・　地域住民がホームを訪れるまでの関係性は築けていないが、今後、町内会行事に参加したりする可能性を探り、町内会との関係性を築こうと行動している。
・　町内会の会議に参加可能であれば、その場で地域活動を把握し、参加の機会を作っていくと良い。
・　民生委員、町内会の方に見学に来ていただく企画などはどうか。
・　自治会や地域の社会資源と具体的にどのような関わりを持っていくのかが今後の課題だと思った。地域の学校や保育園、高齢者施設などの公共的な施設や団体に対してもアプローチすることで、何かきっかけが見つかればよいと感じた。

４　地域移行等の促進

（評価ポイント）
・　施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うための取組みを行っているか。

評価・要望・助言

・　地域に目を向けることができていないと思っているとのこと。今後は地域部会などに参加することで、地域に関わっていけるのではないかと考えているとのこと。
・　地域移行を促すにしても、職員に余力がなければ難しいと思うので、経営の実情を鑑みつつ、少しでも余力が生まれるような人員配置等についても考慮いただければと思う。
・　事業所の運営で手一杯で、事業所として地域での立ち位置を探ったり、獲得したりすることはできていない。希望、構想をお持ちであるようなので実行されることを希望する。
・　今後も受け入れが難しい方や女性が入居できるＧＨなどを検討していただけると良い。

別　添

（様式３）

日中サービス支援型共同生活援助　令和５年度事業内容評価等結果

事業所（運営法人）	ソーシャルインクルーホーム広島坪井（ソーシャルインクルー株式会社）

５　その他自由記載欄（全体的な感想など）

・　精神障害をお持ちの利用者が多い事業所のようである。系列の事業所が全国で２００を超えるとのことで、対応困難な事例等の情報が多く共有され支援に生かされている。地域のエリアマネージャーによりコンプライアンスについては特に配慮されている。
・　全国に２００か所ある大規模な展開をされている会社であり、日中レクや活動の好事例を情報共有できたら、より良い支援やスタッフのやりがいにつながるのではないかと思った。
・　同法人の各事業所で特性があるのか分からないが、少しずつでも医療ケアに積極的な対応を求める。
・　女性の受け入れもあれば、社会資源として広がっていくと思う。
・　グループホーム内での取り組み、地域活動への参加など、ご利用者の方に沿った支援が考えられていると思った。
・　前回の評価でも挙がっていた、具体的な写真等の内容があればもっと分かりやすかったように感じた。
・　事業所の運営で手一杯で、制度上のあるべき状態に到達できていない印象を受けた。
・　まずは事業所での生活と活動が、利用者の方にとって安心して過ごすことができる場になることが基本だと思った。今後検討されていく日中活動の内容や質がそれに関わってくると思う。その中で利用者の得意なこと、強みが地域の中で発揮されてくことを願っている。
・　行動障害の方の支援事例について話があった。問題行動にチームで目を向けて原因を考え、取り組まれたことにより、問題行動が改善されたとのこと。継続的に実直に行われた結果だと感じた。

○各事業所の利用者状況

１　年齢

事業所	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	定員
①グループホーム ＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町	2	2	3	7	2	16	19
②グループホームりらっくす 南観音	3	4	4	6	2	19	20
③グループホームりあん	1	3	0	0	0	4	10
④ソーシャルインクルーホーム広島 狩留家町２号館	3	2	2	7	6	20	20
⑤グループホーム にこり・ほっと	2	8	6	4	0	20	20
⑥グループホームひといき	5	9	5	3	6	28	28
⑦ソーシャルインクルーホーム広島 坪井	4	2	5	6	3	20	20
計	20	30	25	33	19	127	
（割合）	（16%）	（24%）	（20%）	（26%）	（15%）		

約40%

２　障害支援区分

区分無/1～2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
0	4	7	2	3	16
0	6	7	3	3	19
0	1	0	2	1	4
0	4	9	3	4	20
3	2	4	5	6	20
2	0	7	10	9	28
0	9	7	3	1	20
5	26	41	28	27	127
（4%）	（20%）	（32%）	（22%）	（21%）	

約75%

３　障害種別（重複あり）

事業所	知的	精神	身体	難病	計
①グループホーム ＳＡ－Ｎ－ＰＯ（三歩）本川町	2	15	1	1	19
②グループホームりらっくす 南観音	14	1	7	0	22
③グループホームりあん	4	0	0	0	4
④ソーシャルインクルーホーム広島 狩留家町２号館	13	5	5	0	23
⑤グループホーム にこり・ほっと	16	2	2	0	20
⑥グループホームひといき	23	5	3	0	31
⑦ソーシャルインクルーホーム広島 坪井	6	11	6	0	23
計	78	39	24	1	142

４　障害特性

医療的ケア	強度行動障害	計
0	0	0
0	2	2
0	3	3
0	2	2
0	0	0
0	12	12
0	2	2
0	21	21

５　入所の経路※

入所施設	病院	他GH	その他	計
1	15	0	0	16
2	0	0	1	3
0	0	1	4	5
1	1	1	5	8
1	0	1	19	21
0	0	0	1	1
1	1	0	2	4
6	17	3	32	58

６　退所の経路※

入所施設	病院	他GH	その他	計
0	0	1	0	1
0	1	0	0	1
0	0	0	1	1
0	2	1	1	4
0	0	0	1	1
0	0	1	0	1
0	1	2	1	4
0	4	5	4	13

※報告書提出月の前月から起算して前１年間の実績